著者名:	論文題名:	掲載誌名:	掲載巻:	掲載号:	発行年:	掲載頁:
青木茂	カントとヘーゲルー神の存在論的証明をめぐって	哲学研究	48	2	1990	p247～279
浅野遼二	若きヘーゲルの「イエス」像2	大阪大学医療短期大学部(人文科学篇)研究紀要		22	1990	p1～30
鯵坂真	ヘーゲル論理学における「概念の自己展開」	哲学(関西大学哲学会)		14	1990	p79～100
伊坂青司	光と闇、そして色彩ーヘーゲルとゲーテの共同戦線	自然哲学研究		2	1990	p25～35
市川佳宏	民主主義と「類」概念ーマルクス『ヘーゲル国法論批判』の分析2	商学論集	59	1	1990	p79～97
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』研究1	神奈川工科大学研究報告		14	1990	p1～8
伊藤剛	初期ラーレンツの法思想の再検討ー新ヘーゲル主義とナチズムとの接点(法的思考の現在)	法哲学年報		1990	1990	p170～178
伊藤結城夫	意識の経験と存在ーヘーゲル存在論の基礎的構造とその方法(承前)	函館大学論究		22	1990	p31～43
稲生勝	「自然の無力」と形態	自然哲学研究		3	1990	p76～81
稲葉稔	『精神現象学』における「教養の国」への出発点ー「法的状態」ー	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p57～94
岩淵剛	ヘーゲル人倫論の研究(その4)	岡崎女子短期大学研究紀要		24	1990	p1～7
内田司	ヘーゲルの「労働と所有」に関する理論ーマルクスの「疎外された労働」理論との関連で2	札幌学院大学人文学会紀要		48	1990	p177～195
内田司	ヘーゲルの「労働と所有」に関する理論1ーマルクスの「疎外された労働」理論との関連で	札幌学院大学人文学会紀要		47	1990	p59～75
海老沢善一	ヘーゲルにおける哲学批評の概念について	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p95～117

太田信二	「ことば」と「労働」の連関について－ヘーゲル03/04年草稿における意識概念に即して－	一橋論叢	103	2	1990	p45～64
太田直道	ヘーゲルの主体概念－テーゼ「実体は主体である」について	宮城教育大学紀要		25	1990	p220～205
大野純一	ニクラス・ルーマンはどう変貌したのか－現代のウェーバーはヘーゲルの亡霊なのか？(法的思考の現在)	法哲学年報		1990	1990	p179～186
加藤　尚武	必然的個体としての有機体	自然哲学研究		2	1990	p17～24
加藤　尚武	「発酵」という言葉にかんする覚書	自然哲学研究		3	1990	p66～75
加藤静夫	ヘーゲル『精神現象学』における主体概念について－自己意識の主体－主体関係	中京大学教養論叢	31	2	1990	p792～775
加藤恒男	意志・人格・身体－ヘーゲル『法哲学』について(続)	中京女子大学紀要		24	1990	p79～84
加藤尚武	絵入り事典の世界－ヘーゲル「反省」論の読解	千葉大学人文研究		19	1990	p1～54
加藤尚武	生という存在の原型	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』(弘文堂)			1990	p2～16
門脇健	「和解」の成就するまで－愛と運命の和解のドラマ的展開	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p211～249
神山伸弘	理念と時間－ヘーゲルにおける「現在」の了解	哲学		40	1990	p142～154
神山伸弘	君主の無意味性－ヘーゲル『法の哲学』における「君主」の使命	一橋論叢		104	1990	p200～219
久保陽一	ヘーゲルの形而上学と道徳性批判	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』(弘文堂)			1990	p229～271
久保田勉	ヘーゲルの世界史観における民族精神	甲南女子大学研究紀要		27	1990	p19～31

久保田勉	ヘーゲルの世界史観における民族精神	甲南女子大学研究紀要		27	1990	p19～31
粂康弘	演繹の歴史的機能と弁証法－ヘーゲルのフィヒテ論	名城商学		39(別冊)	1990	p117～99
栗原隆	事実から事行へ－ヘーゲルによるシュルツェ批判，クルーク批判の前哨	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』(弘文堂)			1990	p55～95
黒崎剛	ヘーゲルの反省論－個体性と全体性の媒介の論理	哲学世界		13	1990	p97～111
黒崎　剛	〈絶対的否定性〉の構造と個体化の地平の開示—ヘーゲルの仮象論—	哲学の探求(全国若手哲学研究者ゼミナール刊)		18	1990	p34～48
黒田則夫	悪実在性と無限性(上)－ヘーゲル『イェーナ論理学形而上学』におけるFursichsein概念の研究－	法政大学大学院紀要		25	1990	p1～22
小池直人	ヘーゲル『精神現象学』における「ことば」の意義について	名城大学人文紀要	25	2	1990	p23～35
香西敏器	ヘーゲルの人倫の体系について	『現代思想への道程－江川先生古稀記念論文集』(北樹出版)			1990	p215～231
小坂国継	二つの弁証法－ヘーゲルと西田幾多郎	比較思想研究		16	1990	p168～176
小林靖昌	ヘーゲルにおける職業団体の倫理	岐阜大学教育学部研究報告		38	1990	p61～78
酒井修	ヘーゲル哲学の本邦渡来－その「論理学」の研究のために	哲学研究	48	1	1990	p1～64
座小田豊	精神と国家－主観性と自由の哲学	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』			1990	p273～328

笹沢豊	スピノザ主義の問題点をめぐって	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』（弘文堂）			1990	p17～54
佐藤康邦	『惑星軌道論』におけるヘーゲルの失敗再考	創文		315	1990	p10～13
柴田隆行	ヘーゲルの他者論－桜井直文氏の批判に答えて	アレフ		3	1990	p108～116
柴田隆行	ヘーゲル学徒としてのシュタイン	社会思想史の窓		74	1990	p1～15
柴田隆行	哲学史概念の成立	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』（弘文堂）			1990	p191～228
霜田求	人倫性と歴史－ヘーゲルの歴史哲学における主体性の問題	待兼山論叢		24	1990	p59～71
鈴木喜重郎	ヘーゲル法哲学大系における国家の倫理的構成2	千葉明徳短期大学研究紀要		12	1990	p19～38
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造4	経済と経営	21	2	1990	p259～281
高山　守	「深淵」としての「絶対者」－ヘーゲル「本質論」における「絶対者」をめぐって	論集（東京大学文学部哲学研究室）		9	1990	p45～76
高山守	「現実」とは何か－ヘーゲルの現実論をめぐって	東京大学教養学部人文科学科紀要		93	1990	p171～217
滝口清栄	ヘーゲル社会哲学の視野－労働－外化論を軸として	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』（弘文堂）			1990	p97～152
竹村喜一郎	イエナ論理学－形而上学におけるヘーゲルの〈関係〉概念	哲学・思想論集		16	1990	p53～73
多田茂	ヘーゲルにとって哲学とは何であったのか	法政大学大学院紀要		24	1990	p15～26
田中保敏	『精神の現象学』における＜経験＞と＜我々＞	アレフ		3	1990	p25～43

谷口孝男	ヘーゲル『エンチクペディー』コメンタール0－哲学の文体または叙述方法(上)	北見工業大学研究報告	22	1	1990	p39～55
田原善郎	自由と現実－ヘーゲルのルター理解について	人文学科論集		24	1990	p61～78
椿幸雄	ヘーゲル「刑法学」の世界－刑法学における「全」・「個」の理論	法学論集（鹿児島大学法文学部）	25	1・2	1990	p13～71
徳増多加志	ヘーゲル論理学における無限者の概念とイデアリスムスの原理	哲学		40	1990	p130～141
戸田洋樹	自己と社会性－ヘーゲル『精神現象学』「理性」の章に関する覚え書き	横浜市立大学論叢	41	1・2・3	1990	p71～89
飛田満	ヘーゲルの「絶対知」について	筑波哲学		2	1990	p31～42
豊福淳一	ヘーゲルにおける倫理的自己の疎外とその回復	防衛大学校紀要		60	1990	p1～31
豊福淳一	ヘーゲルにおける宗教的自己の完成とその問題点	防衛大学校紀要		61	1990	p1～36
長島隆	個体性の形而上学－ヘーゲル自然哲学の根本性格1	日本医科大学基礎科学紀要		11	1990	p31～46
中島秀憲	若きヘーゲルのヤコービ批判－『信仰と知』をめぐって	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p134～173
中本章夫	ヘーゲルまで批判する「社会主義憎悪論」の手法(マスコミ批評雑誌)	文化評論		348	1990	p278～281
八田隆司	ヘーゲルにおける個別者の憧憬と確信	明治大学教養論集		228	1990	p205～230
服部正喜	ヘーゲル所有論の構造	大阪産業大学論集		78	1990	p91～99
服部正喜	ヘーゲルの時代の法状態とヘーゲルの法理論－プロセイン一般ラント法との関係を中心に	大阪産業大学論集		77	1990	p91～98
速川治郎	ヘーゲル『大論理学』批判5	早稲田人文自然科学研究		37	1990	p27～48
速川治郎	ヘーゲル『大論理学』批判6	早稲田人文自然科学研究		38	1990	p49～63

早瀬明	歴史と世界－青年ヘーゲルの歴史経験	哲学研究	48	1	1990	p115～179
早瀬明	ヘーゲルの立憲君主制国家論	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p174～210
原崎道彦	ヘーゲルの最初の哲学構想	自然哲学研究		3	1990	p40～51
原崎道彦	合一と所有－青年ヘーゲルの新編集資料を解読する	思索		23	1990	p47～67
藤田俊治	ヘーゲルのTeleologie	途上（思想とキリスト教研究会）		19	1990	p119～144
藤田正勝	ヘーゲルとヘルダーリン	『講座ドイツ観念論第5巻ヘーゲル－時代との対話』（弘文堂）			1990	p153～187
藤田正勝	体系の形成と宗教	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p118～133
坊城明文	イェーナ期ヘーゲルの人倫思想の実像を求めて(その2)有機体論と機械論・フィヒテの国家論に対するヘーゲルの批判のあり方をめぐって	福井工業大学研究紀要（第2部）		20	1990	p51～58
星敏雄	物理学・自然哲学・「本来的形而上学」－ヘーゲルの形而上学概念	自然哲学研究		3	1990	p52～65
星敏雄	ヘーゲルの形而上学概念への新解釈－フルダ教授の最近の講演の批判的吟味	工学院大学共通課程研究論叢		28	1990	p21～32
星野勉	道徳性と人倫－ヘーゲルによるカントの道徳哲学の批判をめぐって	法政大学文学部紀要		36	1990	p13～39
干場薫	認識の法廷－ヘーゲルにおける意識と言語の問題	一橋論叢	104	2	1990	p183～199
牧野廣義	弁証法的矛盾のカテゴリー	大阪経済法科大学論集		43	1990	p1～123
松井良和	華厳学における「理事」とヘーゲル論理学における「反照」	三重大学論集（人文学部哲学・思想学系）		6	1990	p1～23
松田純	芸術の終焉と言語－ヘーゲル美学における歴史意識の両義性	人文論集		41	1990	p29～51

三浦和男	ヘーゲルの自由論	哲学(三田哲学会)		91	1990	p73～94
村上恭一	ヘーゲル『惑星の軌道に関する哲学的論考』考中－ヘーゲル『精神現象学』のうち,「力と悟性」を読むための1つの手引	法政大学教養部紀要		74	1990	p1～27
森田侑男	ヘーゲルに於ける哲学と自然科学	東京学芸大学紀要第2部門人文科学		41	1990	p45～67
森永和英	象徴と欲望の社会学－ヘーゲル労働論の限界と可能性	現代思想	18	4	1990	p168～189
谷嶋喬四郎	報告 フランス革命とヘーゲル－時代にとってフランス革命とは何であるのか[含 質疑応答](第14回[社会思想史学会]大会記録－フランス革命の思想的衝撃<シンポジウム>)	社会思想史研究		14	1990	p39～48
山田忠彰	〈大哲学者の亡霊〉ヘーゲル	理想		645	1990	p72～73
山田正行	ヘーゲル承認論の形成と構造2『1805～06年体系草案』－精神哲学の研究1	早稲田政治公法研究		31	1990	p181～204
山根共行	ヘーゲルの思弁的命題	大阪経済法科大学論集		39	1990	p75～83
山内 芳文	ヘルバルトのヘーゲル法哲学批評について	筑波大学教育学系論集 / 筑波大学教育学系	15	1	1990	p1～11
吉野貴好	Ωber den Substanzbegriff bei Hegel	高崎経済大学論集	33	3	1990	p153～180
米長政彦	ヘーゲルの時間概念1	人文学科論集		32	1990	p1～26
寄川条路	初期ヘーゲルにおける「生」について－シェリングの＜有機組織＞に関連して	自然哲学研究		3	1990	p24～39
渡辺 祐邦	ベルトレの『化学静力学論』とヘーゲルの選択親和力論－ヘーゲルが読んだ科学の古典1	自然哲学研究		3	1990	p1～23

新垣誠正	ヘーゲル『精神現象学』における〈感覚的確信〉の意味	沖縄国際大学教養部紀要	16	17	1991	p43～63
有尾善繁	ヘーゲル『論理学』における「概念」と物質概念	阪南論集	27	1	1991	p77～92
泉俊宏	ヘーゲルの「現実性」概念 ー『小論理学』によせて	倫理学 / 筑波大学倫理学原論研究会		9	1991	p67～76
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』研究2	神奈川工科大学研究報告		15	1991	p1～11
稲生勝	対象としての自然と主体としての自然ーヘーゲルの自然観に関する一考察	和光大学人文学部紀要		24	1991	p77～87
岩淵剛	ヘーゲル人倫論4	岡崎女子短期大学研究紀要		24	1991	p1～7
内田司	ヘーゲルの「労働と所有」に関する理論ーマルクスの「疎外された労働」理論との関係で3	札幌学院大学人文学会紀要		49	1991	p75～96
榎木益栄	ヘーゲルにおける時間と弁証法ー自然哲学の範囲において	学園論集		68	1991	p1～8
太田孝太郎	若きヘーゲルー経済学研究への道	広島経済大学経済研究論集	14	2	1991	p129～154
太田信二	欲望の論理と自己意識ーヘーゲルの諸『精神現象学』における構想をふまえて	倫理学年報		40	1991	p99～114
岡本賢吾	ヘーゲルにおける「仮言推論」と「活動性」ーライプニッツとの関連で	哲学雑誌	106	778	1991	p103～120
小田智敏	ヘーゲル『精神の現象学』における「我」と「我々」	哲学		43	1991	p1～14
小田部胤久	呼びかけとしての芸術作品についてーヘーゲル美学における意味作用の問題	神戸大学文学部紀要		18	1991	p25～66
小野誠二	弁証法の歴史的散見ー田辺哲学の弁証法(その4)	北海学園大学学園論集		69	1991	p1～60
堅田剛	ヘーゲル, あるいは哲学的法学	独協法学		32	1991	p51～74

片山寛	ヘーゲルの三位一体論	哲学論文集		27	1991	p21～39
加藤尚武	ヘーゲル自然哲学と進化論1	自然哲学研究		4	1991	p1～8
加藤恒男	F.J.ガルの全体像と骨相学－ヘーゲルの批判と関連の視点から	中京女子大学紀要		25	1991	p201～213
加藤尚武	対立の想定ごっこと磁石－ヘーゲル『大論理学』に描かれた「対立」の概念	千葉大学人文研究		20	1991	p1～57
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学1－ヘーゲルに「法」哲学なんてありはしない	現代思想	19	1	1991	p202～209
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学2－友愛こそは自由であり平等である	現代思想	19	2	1991	p38～44
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学3－誰が私の身体を所有するか	現代思想	19	3	1991	p238～245
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学5－承認は契約の前提である	現代思想	19	5	1991	p268～277
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学6－オレステスの犯罪とその「止揚」	現代思想	19	6	1991	p221～230
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学7－正義のために世界が亡びるなんて本末転倒だ	現代思想	19	7	1991	p236～246
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学8－エゴイズムと正義の練金術	現代思想	19	8	1991	p256～265
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学9－習慣という怪物の背景の中で	現代思想	19	9	1991	p222～231
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学10－トポスとしての家	現代思想	19	10	1991	p277～286
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学11－権利と市民社会	現代思想	19	11	1991	p233～241
加藤尚武	ヘーゲルのいわゆる「法」哲学12完－国家－結晶と流出	現代思想	19	12	1991	p240～247

木村倫幸	市民社会の原理と国家の原理－ヘーゲル「人倫」の展開についての考察	奈良工業専門学校研究紀要		27	1991	p172～179
木村博	若きヘーゲルにおける歴史と懐疑主義(第15回[社会思想史学会]大会記録－自由論題と質疑応答のまとめ)	社会思想史研究		15	1991	p78～83
工藤豊	ヘーゲルにおける権力観－統合による社会的統一の形成	仏教経済研究		20	1991	p115～132
黒崎剛	形式としての根拠―根拠論における本質の個体化の論理―	早稲田大学文学研究科紀要(哲学･史学編)		18(別冊)	1991	p3～12
小池直人	ヘーゲル『精神現象学』における「外化」概念	哲学		41	1991	p133～143
幸津國生	文献学をめぐって－ヘーゲル研究、とりわけニュルンベルク時代のギムナジウム研究を例として	日本女子大学紀要		創刊号	1991	p129～142
西郷大作	ヘーゲルとキリスト教	哲学論文集		27	1991	p115～131
佐々木俊三	「食べること」と精神－ヘーゲルとﾌﾌﾛｲﾄにおける内化の問題に寄せて(1)	東北学院大学論集 人間･言語･情報		100	1991	p1～30
笹沢豊	ヘーゲル人間論の射程	理想		647	1991	p85～101
島崎隆	ヘーゲル自然哲学と進化論	自然哲学研究		4	1991	p40～52
霜田求	ヘーゲルの人倫論における宗教の役割	倫理学研究(関西倫理学会)		21	1991	p14～25
鈴木喜重郎	ヘーゲル法哲学大系における国家の倫理的構成3	千葉明徳短期大学研究紀要		13	1991	p47～65
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造6	経済と経営	22	3	1991	p63～108
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造5	経済と経営	22	1	1991	p125～175
高柳良治	ハイデルベルグ時代の「欲求の体系」論－ヘーゲル6法哲学講義(1817/8年)から	国学院経済学	38	3･4	1991	p379～406

高山　守	ヘーゲル「イェーナ形而上学」読解	論集（東京大学文学部哲学研究室）		10	1991	p56～74
高山守	ヘーゲルにおける「言語」と「現実」	哲学雑誌	106	778	1991	p83～101
竹村 喜一郎	「1800年体系断片」におけるヘーゲルの哲学的視圏	倫理学 / 筑波大学倫理学原論研究会		9	1991	p11～24
竹村 喜一郎	イエナ論理学 ― 形而上学におけるヘーゲルの〈関係〉概念	哲学･思想論集 / 筑波大学哲学･思想学系		16	1991	p53～73
多田茂	青年ヘーゲルにおけるキリスト教の実定性の問題	倫理学年報		40	1991	p67～82
田中芳美	ヘーゲル『精神現象学』の「理念」	ぱいでいあ		15	1991	p41～52
角田修一	ヘーゲル生命論と初期マルクス	立命館経済学	39	6	1991	p1194～1221
出口純夫	ヘーゲルにおける論理の問題	国学院雑誌	92	11	1991	p32～46
東城国裕	「倒錯した世界(Die verkehrte Welt)－ヘーゲル『精神現象学』「悟性」章の分析	佐賀大学教養部研究紀要		23	1991	p1～22
永井健晴	自由と法権利－ヘーゲル『法権利の哲学』に於ける「抽象的法権利」と「道徳態」に就いて	大東文化大学紀要		29	1991	p15～32
長島隆	個体性の形而上学－ヘーゲル自然哲学の根本性格2	日本医科大学基礎科学紀要		12	1991	p1～20
中島秀憲	若きヘーゲルと近代の信仰	宗教研究	65	2	1991	p211～237
尼寺義弘	ヘーゲル推理論とマルクス価値形態論	阪南論集（社会科編）	26	4	1991	p1～12
尼寺義弘	ヘーゲルの推理論2	阪南論集（人文・自然科学編）	26	4	1991	p1～8
尼寺義弘	ヘーゲルの推理論(1)	阪南論集人文･自然科学編	26	3	1991	p15～20

尼寺義弘	Die Kategorien Anschauung und Begriff im System der Sittlichkeit bei Hegel in bezug auf die politische Ǝkonomie	阪南論集 人文･自然科学編	27	1	1991	p143～146
尼寺義弘	Hegels Theorie vom Schlusーeine wichtige wissenschaftliche Quelle fur Marx Theorie von der Wertform	阪南論集 人文･自然科学編	27	2	1991	p1～10
速川治郎	補遺ヘーゲル『大論理学』の反照的運動	早稲田社会科学研究		43	1991	p66～71
速川治郎	ヘーゲルの反照論理学	早稲田社会科学研究		42	1991	p47～72
平井京子	ヘーゲルにおける法ー法律ー裁判	法政研究	57	3	1991	p395～436
増渕幸男	チュービンゲン時代のヘーゲルの自己形成過程について	東京電機大学研究報告		10	1991	p13～24
松生建	ヘーゲル『法哲学』における報復の論理	海保大研究報告	37	1	1991	p23～44
宮田和保	「予備概念」『小論理学』(ヘーゲル)についての考察2	北海道教育大学紀要	42	1	1991	p29～46
宮田和保	「予備概念」『小論理学』(ヘーゲル)についての考察1	北海道教育大学紀要	41	2	1991	p27～39
村上恭一	ヘーゲル『精神現象学』における理性の自己確信の諸相	法政大学教養部紀要		78	1991	p1～18
森田侑男	ゲーテとヘーゲル	東京学芸大学紀要		42	1991	p31～58
山口誠一	ヘーゲルの元素論について－『ティマイオス』篇32a-b解釈の検討	法政大学教養部紀要		78	1991	p19～32
山口誠一	ヨーロッパとヘーゲル	未来		294	1991	p2～6
山口祐弘	19世紀初頭における体系論争ーフィヒテ，シェリングの応酬とヘーゲル	東京理科大学紀要		24	1991	p1～22
山崎純	芸術の終焉と言語ーヘーゲル美学における歴史意識の両義性	人文論集（静岡大学文学部）		41	1991	p29～51

渡辺 祐邦	H. シュテフェンスの『地球の内的自然史への寄与』とヘーゲルによるその批判－ヘーゲルが読んだ科学の古典2	自然哲学研究		4	1991	p9～39
会田弘継	アメリカニズム再定義の闘い	中央公論		1287	1992	p124～143
荒川善広	ヘーゲルの宗教哲学における「イデーの展開」	天理大学学報		169	1992	p87～97
伊坂青司	ヘーゲル自然哲学の成立－ロマン主義からの自立	理想		649	1992	p79～89
石井伸男	ヘーゲルの「意識」概念	高崎経済大学論集	34	4	1992	p135～157
石川伊織	個体性と自己－ヘーゲル『精神現象学』の課題と「自己」概念の形成について	倫理学年報		41	1992	p53～68
石崎宏平	絶対知の立場	学習院女子短期大学紀要		30	1992	p1～12
市川佳宏	民主主義と「類」概念－マルクス『ヘーゲル国法論批判』の分析3	商学論集	60	3	1992	p85～105
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』研究3	神奈川工科大学研究報告		16	1992	p1～10
井上範夫	ヘーゲルとロカンタン－<このもの><個別性><普遍性>	山梨大学教育学部研究報告 第1分冊 人文社会科学系		43	1992	p64～74
稲生勝	ヘーゲルの化学説－原子－分子概念の混乱の化学史のなかで	理想		649	1992	p90～100
岩佐茂	ヘーゲル弁証法の批判的精神	一橋論叢	107	4	1992	p540～552
岩波哲男	宗教と宗教批判－ヘーゲルとバルト	実存思想論集（理想社）	7		1992	p27～46
岩淵剛	ヘーゲル人倫論の研究（その5）	岡崎女子短期大学研究紀要		26	1992	p1～9
榎本庸男	ヘーゲルにおける国家と人倫的行為	関西学院哲学研究年報		26	1992	p36～21
大野純一	ニコラス・ルーマンの変貌－現代のウェーバーないしヘーゲルの亡霊	明治大学大学院紀要（法学篇）		30	1992	p51～65

岡崎英輔	「見る」ことと「考える」こと－ショーペンハウエルのヘーゲル「批判」について	文経論叢（弘前大学人文学部）	27	3	1992	p1～13
勝道興	『悲劇の誕生』におけるヘーゲル的なもの	倫理学研究		22	1992	p51～60
勝道興	生成的自己あるいは悲劇－ニーチェにおける「ヘーゲル的なもの」	哲学（関西大学哲学会）		15	1992	p73～94
加藤 尚武	ヘーゲル自然哲学と進化論2	自然哲学研究		6	1992	p11～20
加藤静夫	ヘーゲル『精神現象学』における<疎外(Entfremdung)>概念-続-	中京大学教養論叢	33	2	1992	p512～489
加藤尚武	何度も「矛盾」の出てくるびっくり箱－ヘーゲル『大論理学』の矛盾概念（上）	千葉大学人文研究		21	1992	p49～90
門脇 健	法廷から劇場へ－ヘーゲルの世界観	哲学論集		39	1992	p50～64
神山伸弘	統治と市民社会の差異の意義－ヘーゲルの『法の哲学』における統治権の恣意性排斥をめぐって	一橋論叢	108	2	1992	p209～229
神田敏英	『ヘーゲル推理論とマルクス価値形態論』尼寺義弘－価値形態論の論理	阪南論集人文･自然科学編	28	2	1992	p129～137
菊地恵善	知と生－ヘーゲル歴史哲学再考	金沢大学教養部論集人文科学編	30	1	1992	p238～222
栗原隆	歴史が物語られる時－ドイツにおける新旧論争とシェリング及びヘーゲルにおける歴史哲学の成立	新潟大学教養部研究紀要		23	1992	p1～23
栗原 隆	歴史が物語られる時－ドイツにおける新旧論争とシェリング及びヘーゲルにおける歴史 哲学の成立	新潟大学教養部研究紀要		23	1992	p1～23
佐藤康邦	ドイツ観念論における形態の理論	現代思想	20	11	1992	p126～138
色摩力夫	「自由民主主義」で歴史は終わらない－F･フクヤマ批判	中央公論		1284	1992	p138～147

島崎　隆	ヘーゲル弁証法の生成ー『精神の哲学』との同時成立をめぐって	社会学研究		30	1992	p39～132
島崎隆	弁証法への私の歩みーものごとを深く捉えるとはどういうことか	唯物論（東京唯物論研究会）		66	1992	p84～98
清水満	承認論の誕生ーイエナ期ヘーゲルのフィヒテ受容	哲学論文集		28	1992	p55～75
末吉康幸	道徳性を超えた精神ーヘーゲル「キリスト教の精神とその運命」におけるカント批判の意義	哲学年報		51	1992	p167～187
末吉康幸		比較思想研究		18	1992	p118～122
杉田正樹	ヘーゲルの「形而上学」断片について	関東学院大学文学部紀要		67	1992	p59～77
鈴木伸一	ヘーゲルの『法哲学』と近代理性法1	駿河台大学論叢		48	1992	p1～16
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造7	経済と経営	23	1	1992	p1～28
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造8	経済と経営	23	2	1992	p107～163
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造9	経済と経営	23	3	1992	p67～101
高山 守	「主体性」とはーヘーゲルのモナド論によせて	論集（東京大学文学部哲学研究室）		11	1992	p50～70
滝口清栄	ヘーゲル批判の思想圏ーシェリング、バウアー、フォイエルバッハと疎外論	石塚正英編『ヘーゲル左派』（法政大学出版局）			1992	p48～72
武井邦夫	世界史観の探求ーヘーゲルとマルクス	茨城大学人文学部紀要		25	1992	p1～26
武田趙二郎	ヘーゲルとハイデッガー	東海大学文明研究所紀要		12	1992	p250～241
竹村喜一郎	Der ontologische Gesichtspunkt der Hegelschen Urteilslehre	哲学･思想論集		18	1992	p182～166
土屋敬二	解釈学とヘーゲル『精神現象学』	立命館文学		522	1992	p1198～1212

徳永 哲也	イエナ期ヘーゲルの人倫思想－労働を鍵概念として	待兼山論叢		26(哲学)	1992	p35～48
永井健晴	近代世界と政治－ヘーゲル『法権利の哲学』に於ける「習慣規範態」に就いて	大東法学		19	1992	p191～236
中河豊	ヘーゲルの表現行為論	名古屋大学哲学論集		2	1992	p55～68
中島秀憲	道徳教育の理論と実践－カント,ロマンティカー,ヘーゲルの道徳論をめぐって(1)(2)	九州産業大学教養部紀要	29	2	1992	p1～33
中島秀憲	道徳教育の理論と実践－カント、ロマンティカー、ヘーゲルの道徳論をめぐって(1)	九州産業大学教養部紀要	29	1	1992	p1～36
中村憲司	若きヘーゲルのヨハネ福音書解釈について	西日本工業大学紀要（人文社会科学編）		8	1992	p9～12
尼寺義弘	ヘーゲルの推理論3	阪南論集	27		1992	p1～14
二宮公太郎	カント倫理学の「偶然性」と「形式性」－ヘーゲルの「立法理性」批判は如何なる意味において妥当するのか	室蘭工業大学研究報告文科編		42	1992	p13～38
橋本剛	マルクスの官僚制批判－ヘーゲルおよびM.ウェバーの官僚制把握との対比	学園論集		73	1992	p1～21
橋本信	人間的意識の経験－ヘーゲル『精神の現象学』「緒論」の分析	拓殖大学論集		196	1992	p1～21
八田隆司	ヘーゲル『精神現象学』における法則概念	明治大学教養論集		248	1992	p163～190
服部健二	フォイエルバッハの「死と不死に関する諸思想」(1830年)について－シュライエルマッヒャー、ヘーゲルとの関係で	立命館文学		522	1992	p1130～1150
早瀬明	人倫国家と貧困－ヘーゲル市民社会論に対するシスモンディ過剰生産論の影響	ヘーゲル学報		2	1992	p82～106
原崎道彦	青年ヘーゲル研究(1)断片「Glauben ist…」を読む	高知大学教育学部研究報告 第2部		45	1992	p17～27

日暮雅夫	ヘーゲルにおける「生」と運命－草稿『キリスト教の精神と運命』における	フィロソフィア		80	1992	p85～97
船盛茂	ｲｪｰﾅ時代におけるﾍｰｹﾞﾙの意識概念と承認の原理について	美作女子大学･美作女子大学短期大学部紀要		37	1992	p1～9
古森義久	『歴史の終わり』のF･フクヤマに聞く－日本の挑戦が「歴史」をひらく	中央公論		1282	1992	p90～99
星 敏雄	自己意識と人格－ヘーゲル『精神現象学』「自己意識」の章の分析	千葉大学教養部研究報告 A		24	1992	p1～28
干場薫	ヘーゲルの認識批判と弁証法－『精神現象学』によせて	哲学		42	1992	p180～191
干場薫	ヘーゲル『精神現象学』における知覚の研究－知覚の思い違い	一橋論叢	108	2	1992	p276～296
松井良和	生命の「起源」と「根源」	論集(三重大学人文学部哲学･思想学系,三重大学教育学部哲学･倫理学教室編)		7	1992	p29～48
松田賀孝	Hegels Staatslehre als Ausgangspunkt zu Marx's Staatslehre	琉球大学経済研究		44	1992	p109～126
松本正男	ヘーゲル対ﾌｨﾋﾃあるいはﾌｨﾋﾃ対ヘーゲル(1)	山口大学哲学研究		1	1992	p1～35
村口始	自由論史におけるヘーゲルの位置－ヘーゲルの自由論	千里山文学論集		48	1992	p1～18
森田侑男	ヘーゲルと音楽	東京学芸大学紀要		43	1992	p53～77
安井邦夫	現象論とﾛｺﾞｽ論－後期ﾌｨﾋﾃとヘーゲルの場合	立命館文学		522	1992	p1110～1129
山口祐弘	生の直観と反省の階梯－ﾌｨﾋﾃ，ヘーゲルにおける「ヨハネ伝」受容	思想		816	1992	p51～77
山内廣隆	ヘーゲル哲学における「無限性」の生成過程	比治山女子短期大学紀要		26	1992	p1～10

山脇雅夫	反省と判断－ヘーゲル『大論理学』についての一試論	哲学論叢（京都大学哲学論叢刊行会）		19	1992	p25～36
Habermeier Rainer	Von Hegels absolutem Wissen zu Kafkas Vieldeutigkeit	言語文化		29	1992	p39～83
渡部祐邦	科学史と自然哲学－主としてヘーゲルの場合について	理想		649	1992	p127～141
青木茂	自負の狂気－ヘーゲル『精神現象学』の一節	流通経済大学論集	27	4	1993	p17～33
青木茂	三位一体論と弁証法－ヘーゲルの「神的三角形」について	流通経済大学論集	28		1993	p1～18
浅野遼二	若きヘーゲルとキリスト教(2)	大阪大学研究紀要（人文科学篇）		25	1993	p1～56
阿部良雄	ダヴィッド/ナポレオン/ヘーゲル－芸術史の終焉	現代思想	21	8	1993	p12～17
荒井正雄	西田哲学におけるヘーゲル哲学の改釈－日本思想覚書	哲学と教育		41	1993	p26～43
新垣誠正	ヘーゲル『精神現象学』における人倫概念(1)	沖縄国際大学教養部紀要	18	19	1993	p27～36
飯倉行雄	ヘーゲルの世界	飯倉行雄『ドイツ観念論における自由と必然性－経済学前史』（近代文芸社）			1993	p170～282
筏津安恕	ヘーゲル法哲学とその背景	『叢書ドイツ観念論との対話4』（ミネルヴァ書房）			1993	p109～138
池田成一	ガルヴェ「流行論」とヘーゲル市民社会論の成立	東北哲学会年報		9	1993	p15～28
池端秀雄	ヘーゲルの思考と易経の有機的認識について([比較思想学会]研究例会発表要旨)	比較思想研究		19	1993	p125～128

伊坂青司	ヘーゲル自然哲学における生命=有機体論ーロマン主義的自然観との関連において(シンポジウム:ヘーゲル哲学における自然と宗教)	東北哲学会年報		9	1993	p42～51
石井基博	ヘーゲルの「道徳性」における善と良心の関係構造	倫理学研究		22	1993	p36～50
石田あゆみ	有限と無限ーヘーゲルのイェーナ前期の問題	哲学論叢(京都大学哲学論叢刊行会編)		20	1993	p1～13
石田あゆみ	無化としての労働ーヘーゲル「人倫の体系」の労働概念	大阪体育大学紀要		24	1993	p71～88
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』研究(4)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		17	1993	p17～30
井上和雄	意味を問うヘーゲルーヘーゲル序論	神戸商船大学紀要 第1類 文科論集		42	1993	p15～30
入江幸男	ヘーゲルとシステム論ー家族療法についての一考察	『叢書ドイツ観念論との対話4』(ミネルヴァ書房)			1993	p192～213
岩城見一	美の定めーヘーゲル美学の先入見	『叢書ドイツ観念論との対話3』(ミネルヴァ書房)			1993	p118～141
岩崎稔	統治のテクノロジーとしてのポリツァイーヘーゲル市民社会論再考	現代思想	21	8	1993	p414～423
岩波哲男	歴史,出来事と史実ーヘーゲルとシュトラウス	早稲田大学大学院文学研究科紀要 哲学・史学編		39	1993	p3～18
岩淵剛	ヘーゲル人倫論の研究(その5)―補足	岡崎女子短期大学研究紀要		27	1993	p1～7
岩本光悦	自由の理念から見られた宗教ーヘーゲルの宗教に関する一考察(1)	山口大学哲学研究		2	1993	p1～45

上村忠男	ヘーゲル論理学の「失われた弁証法」をめぐって	現代思想	21	8	1993	p180～189
海老沢善一	方法としての始まり－ヘーゲル論理学再考-上-	愛知大学文学論叢		102	1993	p1～18
海老沢善一	方法としての始まり－ヘーゲル論理学再考-下-	愛知大学文学論叢		103	1993	p17～31
大川正彦	ヘーゲル市民社会論における私的所有と社会的資源(上)「自己所有権」テーゼ批判をめぐって	早稲田政治公法研究		41	1993	p243～260
大川正彦	ヘーゲル市民社会論における私的所有と社会的資源(下)「自己所有権」テーゼ批判をめぐって	早稲田政治公法研究		42	1993	p159～184
太田信二	「或るものの他者と」と「他者それ自身」－ヘーゲル『論理学』の定在章における他者理解によせて	國学院短期大学紀要		11	1993	p233～268
大西正人	ヘーゲルの行為論－相互承認としての行為	人文研究(神奈川大学人文学会編)		116	1993	p31～58
大庭健	地でいった『精神現象学』－分析哲学の展開と「意識の経験」	現代思想	21	8	1993	p275～289
大橋良介	ヘーゲルと日本人	現代思想	21	8	1993	p159～167
岡本賢吾	関係の存在をどう捉えるか－ラッセルが「アイデアリズム」の哲学から引き出した1つの問題(ヘーゲルの思想<特集>)	現代思想	21	8	1993	p290～309
小川真人	若きヘーゲルにおける悲劇の問題	美学	44	2	1993	p46～56
小田部胤久	「芸術作品は自然の所産よりも高次である」－ヘーゲル美学における自然と芸術	現代思想	21	8	1993	p225～235

鹿島徹	ヘーゲル哲学における歴史時間の基礎づけ	社会科学討究(早稲田大学大隈記念社会科学研究所)	39	1	1993	p123～150
鹿島徹	ヘーゲルと<時間>の問題ークロノス的時間の克服と精神の時間性の時熟	現代思想	21	8	1993	p148～158
加藤尚武	ヘーゲル「概念論」のなかの自己関係性(オートポイエーシス<特集>ー自己言及性)	現代思想	21	10	1993	p164～172
神山伸弘	イルティング・テーゼ	現代思想	21	8	1993	p256～259
工藤豊	ヘーゲルにおける宗教の主体化についてー『精神現象学』における実体と主体の統合	仏教経済研究		22	1993	p173～192
工藤豊	ナショナリズムの形成と本質ーヘーゲル・フィヒテにおける民族観を中心として	いわき紀要(いわき短期大学)		20	1993	p25～43
久保陽一	「真理の論理学」の展開	現代思想	21	8	1993	p310～319
幸津國生	人倫と道徳性ー主観的自由の意味をめぐって	『叢書ドイツ観念論との対話4』(ミネルヴァ書房)			1993	p168～191
上妻精	ヘーゲルとニーチェー弁証法的否定とディオニュソス的肯定	現代思想	21	8	1993	p380～390
小林亜津子	ヘーゲル哲学における神人イエスの意義	哲学年誌(法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻)		25	1993	p1～19
斎藤稔章	戦争と国家ーイエナ時代初期のヘーゲルの戦争論	哲学論叢(京都大学哲学論叢刊行会編)		20	1993	p14～27
坂本清子	「国家」と「国民」の間ーヘーゲル「ドイツ憲法論」における近代国家の構図	横浜国立大学人文紀要第1類 哲学社会科学		39	1993	p1～16

座小田豊	意識と自由－ヘーゲル哲学における「自由」の意味について	東北大学教養部紀要		60	1993	p55～76
座小田豊	現代神学の中のヘーゲル	現代思想	21	8	1993	p264～267
笹沢豊	ヘーゲルと幻想のスピノザ－あるいは知のポテンチア	現代思想	21	8	1993	p340～351
佐藤康邦	今、なぜ歴史の終りなのか－ヘーゲル『歴史哲学』の射程	現代思想	21	8	1993	p58～71
佐野文人	絶対知の立場	『叢書ドイツ観念論との対話4』(ミネルヴァ書房)			1993	p77～108
四日谷敬子	ゾルガーのイロニー概念とヘーゲル弁証法	現代思想	21	8	1993	p216～224
重永哲也	ライプニッツとヘーゲルにおける神概念の具体的究明の一断面	文化(駒沢大学文学部文化学教室)		16	1993	p83～112
篠木芳夫	フンボルトにおけるカント的要素とヘーゲル的要素-上-フンボルトにおけるカント的要素	北海道教育大学紀要第1部Ａ人文科学編	44	1	1993	p1～10
篠木芳夫	フンボルトにおけるカント的要素とヘーゲル的要素-下-フンボルトにおけるカント的要素-フンボルトにおけるヘーゲル的要素	北海道教育大学紀要第1部Ａ人文科学編	44	1	1993	p11～23
下城一	因果論の呪縛－ヘーゲル「力と悟性」に於ける近代力学的世界観批判	倫理学紀要		8	1993	p80～100
末吉 康幸	承認論の根底に存する問題－『精神現象学』自己意識章における承認論の研究	哲学論文集(九州大学哲学研究会)		52	1993	p181～202
杉田孝夫	ドイツ観念論における家族観－HausからFamilieへ	お茶の水女子大学人文科学紀要	46		1993	p115～128
鈴木覚	ヘーゲル精神現象学における美しき魂	哲学年誌(法政大学大学院人文科学研究科哲学専攻)		25	1993	p61～79

鈴木喜重郎	ヘーゲル法哲学体系における国家の倫理的構成(4)	千葉明徳短期大学研究紀要		15	1993	p55～76
須藤泰秀[訳･解説]	弁証法の特徴－ヘーゲル『小論理学』第79節～第83節より	立命館産業社会論集		78	1993	p123～141
銭広雅之	ヘーゲル『精神現象学』の『絶対知』で「純粋存在」を問うこと	広島県立大学経営学部・生物資源学部紀要	5	1･2	1993	p13～26
銭広雅之	ヘーゲル『精神現象学』における「純粋存在」	広島県立大学経営学部・生物資源学部紀要	5	1･2	1993	p1～12
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造11	経済と経営	24	1	1993	p93～121
高田純	ヘーゲルの相互承認論の形成と構造10	経済と経営	23	4	1993	p775～808
高山守	思弁と経験	『叢書ドイツ観念論との対話4』(ミネルヴァ書房)			1993	p139～167
高山守	ヘーゲルにおける有機組織という虚像	現代思想	21	8	1993	p106～117
滝口清栄	「人倫的実体の生成」と「道徳性の生成」－ヘーゲル『精神現象学』「理性」章B冒頭の解釈めぐって	法政大学教養部紀要		86	1993	p93～115
滝口清栄	ヘーゲル疎外論の構図－『精神現象学』「精神」章Bを中心に	現代思想	21	8	1993	p190～198
竹村喜一郎	ヘーゲル論理学における構造の理念	筑波哲学		4	1993	p36～48
谷崎秋彦	歴史への2つの道－ヘーゲルとハイデガーにおける「歴史」について	社会科学討究(早稲田大学大隈記念社会科学研究所)	39	2	1993	p597～626
田原善郎	ヘーゲル宗教哲学における感情の役割	人文学科論集(茨城大学人文学部)		26	1993	p17～41
田村恭一	超越論的反省と実存弁証法的反省	東北哲学会年報		9	1993	p29～41

辻村公一	ヘーゲル「吾々にとって」	辻村公一『ドイツ観念論断想1』（創文社）			1993	p149～171
徳増多加志	目的論的世界像と人間の主体－ヘーゲル『論理学』の「目的論」をめぐる一問題	倫理学年報		42	1993	p53～68
豊福淳一	ヘーゲル形而上学の出発点	防衛大学校紀要 人文科学分冊		67	1993	p1～10
中岡成文	ヘーゲルとニヒリズムの課題	現代思想	21	8	1993	p352～361
中川清吾	ヘーゲル『精神現象学』における行為論	函館工業高等専門学校紀要		27	1993	p135～146
西谷修[談]	5世紀の円環－<世界史>としてのヨーロッパ	現代思想	21	8	1993	p402～413
新田義弘	「精神現象学」と「意識の経験の学」	『叢書ドイツ観念論との対話4』（ミネルヴァ書房）			1993	p214～238
新田義弘	顕現せざるものの現象学	現代思想	21	8	1993	p8～11
長谷川宏	『歴史哲学講義』を読む	現代思想	21	8	1993	p44～57
早瀬明	ヘーゲル「ﾄﾞｲﾂ憲法論」に於ける国家権力と団体自治－シュレーツァーに依る国家と市民社会との区別の方法論的な影響	立命館文学		529	1993	p234～248
原崎道彦	ｲｴﾅ期の体系構想	現代思想	21	8	1993	p240～243
原崎道彦	青年ヘーゲル研究(2)断片「Positiv wird･･･」を読む	高知大学教育学部研究報告 第2部		46	1993	p15～25
原崎道彦	ヘーゲルの「イエス伝」を読む－青年ヘーゲル研究	思索		26	1993	p63～81
鮒村忠志	ヘーゲルの『精神現象学』における「良心」の問題	倫理学研究		22	1993	p51～61
北条浩	ヘーゲルにおけるアジア社会	秋田経済法科大学法律政治研究所紀要	9		1993	p1～30

星敏雄	ヘーゲルにおける「網としての形而上学」の概念をめぐって	二松学舎大学論集		36	1993	p57～74
干場薫	ヘーゲルにおける思考と存在の同一性の問題について	唯物論		67	1993	p60～70
松本正男	ヘーゲル対フィヒテあるいはフィヒテ対ヘーゲル(2)	山口大学哲学研究		2	1993	p1～39
松山寿一	ニュートンとヘーゲル自然哲学における実証と思弁	現代思想	21	8	1993	p118～129
満井裕子	「キリスト教の精神とその運命」にみられるヘーゲルの人間理解	一橋研究（一橋大学大学院学生会）	18	1	1993	p65～87
森川孝吉	「承認」概念の歴史	現代思想	21	8	1993	p244～247
森田侑男	ヘーゲルに於ける宗教と哲学	東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学		44	1993	p23～54
山口誠一	若きヘーゲルにおける概念と全一論	『近世ドイツ哲学論考』（濱田義文・牧野英二編）法政大学出版局			1993	p249～257,p271～290
山崎純	プロテスタンティズムの原理と近代国家の精神－世俗化テーゼとヘーゲル(ヘーゲル哲学における自然と宗教(シンポジウム)	東北哲学会年報		9	1993	p52～62
山崎純	隷従の宗教から自由の宗教へ－『宗教哲学』講義におけるユダヤ宗教の評価の転回について	現代思想	21	8	1993	p168～179
山田隆夫	社会と人間(2)マルクスとヘーゲルとフォイエルバッハ	中京大学教養論叢	34	3	1993	p677～686
山田正行	自由主義と共同体論の彼岸－ヘーゲルと現代政治哲学のコンテクスト	現代思想	21	8	1993	p391～401
山本雄一郎	初期マルクスにおけるヘーゲル批判と史的唯物論の形成	商大論集(神戸商科大学経済研究所)	45	1	1993	p55～76

寄川条路	ゲーテとヘーゲル有機的自然を中心として	『叢書ドイツ観念論との対話2』(ミネルヴァ書房)			1993	p101～124
丹生谷貴志	直接性の弁証法	現代思想	21	8	1993	p362～369
青木茂	ヘーゲルとニーチェ－「神の死」をめぐって	実存思想論集(理想社)	4		1994	p5～22
青木茂	ヘーゲル哲学とキリスト教	流通経済大学論集	29	1	1994	p1～19
青木茂	ヘーゲルのキリスト論	流通経済大学論集	29	2	1994	p47～73
荒木正見	西田幾多郎の場所論とヘーゲル弁証法([比較思想学会]研究例会発表要旨)	比較思想研究		20	1994	p195～199
伊坂青司	有限と無限－あるいはヤコービとヘーゲル	叢書『ドイツ観念論との対話』第5巻(ミネルヴァ書房)			1994	p17～54
[座談会]石塚正英[他]	ヘーゲル左派と世界(ヘーゲル左派と現代<特集>)	理想		653	1994	p2～19
石塚正英	聖書の神話的解釈とフェティシズム－シュトラウスを論じてフォイエルバッハに及ぶ(ヘーゲル左派と現代<特集>－ヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p20～31
板井孝一郎	民族宗教と新しい神話－ヘーゲル生命論と宗教	実践哲学研究		17	1994	p21～36
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(5)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		18	1994	p25～38
稲葉振一郎	貧民問題を巡るスミスとヘーゲル(1)	岡山大学経済学会雑誌	25	3	1994	p659～674
稲葉振一郎	貧民問題を巡るスミスとヘーゲル(2)	岡山大学経済学会雑誌	25	4	1994	p1231～1246
稲葉振一郎	貧民問題を巡るスミスとヘーゲル(3)	岡山大学経済学会雑誌	26	1	1994	p57～76

岩城見一	後期ヘーゲルの「像」理論と『美学』－ハイデッガーの「表象」批判を顧慮して	上妻精他編『ヘーゲル』（情況出版）			1994	p232～248
岩波哲男	歴史、出来事と史実－ヘーゲルとシュトラウス	早稲田大学大学院文学研究科紀要（哲学・史学篇）		39	1994	p3～18
植村邦彦	マイノリティの「解放」をめぐって－ヘーゲル左派と「ユダヤ人問題」（ヘーゲル左派と現代<特集>－ヘーゲル左派は現代に何を提議するか）	理想		653	1994	p58～67
生方卓	ヘーゲル、ガンスと死刑の問題(ヘーゲル左派と現代<特集>－ヘーゲル左派は現代に何を提議するか）	理想		653	1994	p32～47
榎本庸男	カントおよびヘーゲルの歴史哲学における人間の自由について	関西学院哲学研究年報		28	1994	巻末p32～18
海老沢善一	ロゴスと否定	上妻精他編『ヘーゲル』（情況出版）			1994	p29～45
海老沢善一	ヘーゲル論理学とキリスト教	『宗教哲学研究』（北樹出版）		11	1994	p31～47
海老沢善一	とてもありえぬこと－ヘーゲルの必然性論	愛知大学文学論叢		105	1994	p1～16
大田孝太郎	媒介の体系としてのヘーゲル『精神現象学』	広島経済大学研究論集	16	4	1994	p39～57
小川清次	ヘーゲルの「陪審裁判制」論－3月前期陪審裁判制要求運動との連関において	哲学論叢（京都大学哲学論叢刊行会編）		21	1994	p61～73
小川真人	美と生命性の論理－ヘーゲル『美学講義』の「矛盾」概念	カリスト（東京芸術大学美術学部美学研究室）		1	1994	p38～57
小坂田英之	ヘーゲルと様相論理(2)—どのようにして異世代間の不公平は矯正されるのか？—	深沢ヘーゲル研究会会報		2	1994	p9～11

鹿島徹	ヘーゲル歴史論の再考のために	『歴史と理論』(歴史と理論研究会)		創刊号	1994	p65～74
鹿島徹	〈近代〉論のアポリアーヘーゲルと高山岩男の〈世界史の哲学〉ー	峰島旭雄編『比較思想の展開』(北樹出版)			1994	p122～134
勝道興	後期ニーチェにおける「ヘーゲル的なもの」について(第53回[日本哲学会]大会一般研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		44	1994	p143～145
加藤尚武	ヘーゲル論理学の中の「実体」と「因果」	千葉大学人文研究		23	1994	p73～109
門脇健	批判する知と絶対知ーガイストに対するカントとヘーゲル	『叢書ドイツ観念論との対話5』(ミネルヴァ書房)			1994	p128～146
神山伸弘	習俗の顕現場としての議会ーヘーゲルの『法の哲学』における議会の位置づけ	一橋論叢	112	2	1994	p245～264
神山伸弘	踊る国家ーヘーゲル『法の哲学』における国家の形態化の論理	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p46～66
久保陽一	「カテゴリーの演繹」の変奏ーヘーゲルの内なるフィヒテ	『フィヒテ研究』(晃洋書房)		2	1994	p90～107
熊野純彦	ヘーゲル他者論の射程ー＜承認＞論の意味をめぐって	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p264～281
栗原隆	知の内に約束された宥和への途ー『精神の現象学』の基底に見る宗教思想の展開	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p144～164
黒崎剛	理念と自然ーヘーゲル哲学体系における論理学から自然哲学への移行の意味について	『ドイツ観念論と自然哲学』(創風社)			1994	p91～112
黒沢惟昭	具体的･普遍的「自己意識」の展開･再考ーマルクス「学位論文」と「ライン新聞」期の接合(ヘーゲル左派と現代<特集>)	理想		653	1994	p147～159

幸津國生	ヘーゲルの論理学における客観的論理学ー主観的論理学という区分の出自についてーニュルンベルク時代のギムナジウムの講義を顧慮してー	日本女子大学紀要		4	1994	p177～186
上妻精	神に近づくとはいかなることを謂うのかーヘーゲル『精神の現象学』の生成と構造	上妻精他編『ヘーゲル』（情況出版）			1994	p15～28
小林昌人	歴史の哲学と行為の哲学ーヘーゲル左派の行為論における必然性･目的性･主体性(ヘーゲル左派と現代<特集>ーヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p88～104
権左武志	ヘーゲル政治哲学の生成と構造(1793-1820年)(1)ヨーロッパ精神史との関連において	北大法学論集	45	3	1994	p287～348
権左武志	ヘーゲル政治哲学の生成と構造(1793-1820年)(2)ヨーロッパ精神史との関連において	北大法学論集	45	4	1994	p619～658
堺律之	ヘーゲル『精神現象学』(1807)における宗教章の構造	同志社哲学年報		17	1994	p16～28
堺律之	ヘーゲル『精神現象学』における宗教章の構造	同志社大学文学研究科同志社哲學年報		17	1994	p16～28
桜井 一江	<私>のなかの区別と統一ールーマンの「区別」概念とヘーゲルの「無限性」概念に基づいて	上智哲学誌		7	1994	p83～108
佐々木晃	ソースタイン･ヴェブレンとヘーゲル弁証法ージョン･S･ギャムズの見解について	経済集志	63	4	1994	p313～326
佐藤康邦	オートポイエーシスとヘーゲルの科学論	上妻精他編『ヘーゲル』（情況出版）			1994	p187～203

柴田隆行	社会主義をめぐる理論と実践ーヘス対シュタイン(ヘーゲル左派と現代<特集>ーヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p77～87
下城一	近代「力」概念の帰趨ーカントからヘーゲル,因果性から相互性へ(第53回[日本哲学会]大会一般研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		44	1994	p113～115
霜田求	ヘーゲル市民社会論における倫理性の問題	大阪産業大学論集 人文科学編		82	1994	p93～110
鈴木伸一	ヘーゲルにおける歴史哲学的思考と市民社会ー『法哲学』を中心にー	駿河台大学論叢		8	1994	p1～22
銭広雅之	ヘーゲル『精神現象学』の始まりにおける純粋存在(1)	哲学(広島哲学会)		46	1994	p14～27
高橋一行	ヘーゲル論理学における自己関係	明治大学大学院紀要(政経)		31	1994	p77～93
高橋一行	偶然・必然・自由	思想の科学		7月号	1994	p94～101
高柳良治	市民社会と「権利の擁護」ーヘーゲル『法哲学講義筆記録(1817/18年)』から	国学院経済学	42	3	1994	p223～250
高柳良治	市民社会と「権利の擁護」ーヘーゲル『法哲学講義筆記録(1817/18年)』から	国学院経済学	42	4	1994	p264～267
高山守	ヘーゲル哲学における心身問題	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p217～231
高山守	ヘーゲルの因果論	東京大学文学部哲学研究室論集		13	1994	p1～17
滝口清栄	社会思想史の中のヘーゲル自由、共同そしてルソー	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p125～143
滝口清栄	伝統との断絶,あるいは知の転換ーシュティルナー思想の現代的意味をめぐって(ヘーゲル左派と現代<特集>ーヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p68～76

竹島尚仁	仮象の存在性格と二元論－ヘーゲル『論理学』本質論の一研究	哲学論叢(京都大学哲学論叢刊行会 // 編)		21	1994	p48～60
武田趙二郎	ヘーゲルにおける体系としての哲学	東海大学文明研究所紀要		14	1994	巻末p214～203
竹村喜一郎	近代哲学批判としてのヘーゲル哲学	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p285～332
東城 国裕	道徳性と偽善－ヘーゲル『精神現象学』における道徳的世界観の分析	長崎県立大学論集	27	4	1994	p23～41
飛田満	ヘーゲルの自己意識概念の独自性－『精神現象学』をめぐって(第53回[日本哲学会]大会一般研究発表要旨)	哲学(日本哲学会)		44	1994	p116～118
中井浩一	ヘーゲルの仮象論－物の性質から(ヘーゲル左派と現代<特集>)	理想		653	1994	p134～146
中河清吾	ヘーゲルと行為	函館工業高等専門学校紀要		28	1994	p121～126
中里 寿明	ヘーゲルの悲劇論についての若干の覚え書き	日本大学農獣医学部一般教養研究紀要		30	1994	p51～55
中島秀憲	ピェティスト、エティンガーの思想の概要－ヘーゲルの視点を通じて	九州産業大学教養部紀要	30	3	1994	p1～19
中山 愈	ヘーゲル哲学における自然と人間	『人間と倫理』(西日本法規出版)			1994	p47～62
南条文雄	K.ヤスパースとM.シェーラーにおける<BILDUNG>概念について－ヘーゲルの<教養の哲学>との関連で	明治学院大学一般教育部付属研究所紀要		18	1994	p1～23
西羽義夫	ヘーゲルの三位一体論	人文社会研究(名古屋市立大学)		40	1994	p1～25
長谷川宏	ヘーゲルの言語観	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p204～216

服部健二	自然の自己意識的本質ーフォイエルバッハの美的世界観について(ヘーゲル左派と現代<特集>ーヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p105～116
早瀬明	啓蒙の限界性を巡るヘーゲルの歴史哲学的思索ー『精神現象学』と『啓蒙の弁証法』の比較	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p249～263
原崎道彦	進化論とヘーゲルなぜヘーゲルに進化論がないのか	『ドイツ観念論と自然哲学』(論創社)			1994	p113～136
原崎道彦	青年ヘーゲル研究(3)断片「So wie sie…」を読む	高知大学教育学部研究報告 第2部		47	1994	p1～9
原崎道彦	青年ヘーゲル研究(4)断片「welchem Zwekke…」を読む	高知大学教育学部研究報告 第2部		48	1994	p17～30
原田哲史	ミュラーとヘーゲル職業団体と統治権に着目して	社会思想史研究		18	1994	p168～179
藤田正勝	西田幾多郎『善の研究』とヘーゲル『精神現象学』	『叢書ドイツ観念論との対話6』(ミネルヴァ書房)			1994	p52～72
藤田正勝	西田幾多郎とヘーゲル	上田閑照編『西田哲学』(創文社)			1994	p61～182
藤野一夫	文化と宗教の実定性(2-初期ヘーゲルにおける「実定性」克服の苦闘	近代(神戸大学近代発行会)		76	1994	p15～63
鮒村忠志	ヘーゲルにおける命題形式の「破壊」と「止揚」	文化学年報(同志社大学文化学会)		43	1994	p57～76
坊城明文	イェーナ期ヘーゲルの人倫思想の実像を求めて(その6)思弁と独断:先験的原理としての所謂「実体性の関係」をめぐって	福井工業大学研究紀要		24	1994	p87～98
干場薫	力と悟性についてーヘーゲル『精神現象学』の一考察	一橋論叢	112	2	1994	p265～283

干場薫	Zum Begriff der Erkenntnis bei Hegel. Eine Betrachtung über Hegels Phänomenologie des Geistes	同志社哲学年報		17	1994	巻末p56～44
的場昭弘	ガンスとフランスーヨーロッパ連合構想(ヘーゲル左派と現代<特集>ーヘーゲル左派は現代に何を提議するか)	理想		653	1994	p48～57
水野建雄	ヘーゲルと近代的自由ー歴史哲学講義を中心として	哲学･思想論集		20	1994	p1～16
森田侑男	ヘーゲル美学に於ける規則性と天才性	東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学		45	1994	p15～39
森永和英	弁証法論理･対話構造の知的生産性	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p165～184
山口誠一	ヘーゲルと観想の幸福(特集 正義と幸福)	哲学雑誌	109	781	1994	p105～120
山口祐弘	絶対者認識における弁証法的思惟の邂逅ーフィヒテとヘーゲル	思想		843	1994	p83～106
山口祐弘	現象する絶対者の思想ー哲学におけるヘーゲルの登場	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p91～124
山口祐弘	ヘーゲルにおける歴史的立場の成立	東京理科大学紀要		26	1994	p15～32
山越正彦	アドルノにおける<カントとヘーゲル>そして/あるいはスラヴォイ･ジジェクへ	Sociologica	19	1	1994	p1～20
山崎純	宗教哲学の成立ー新版にもとづく発展史的考察	上妻精他編『ヘーゲル』(情況出版)			1994	p67～90
山崎純	ヘーゲル宗教哲学の形成と構造	人文論集(静岡大学人文学部)	45	1	1994	p59～95
山崎純	恐怖政治と宗教反動の時代を生きてーベルリンにおけるヘーゲルとシュライアーマッハー	情況		11月号	1994	p128～147
山崎純	恐怖政治と宗教反動の時代を生きてーベルリンにおけるヘーゲルとシュライアーマッハー	情況		12月号	1994	p104～121

山崎弘行	イェイツとヘーゲル ー歴史観とアジア観をめぐって	兵庫教育大学研究紀要.第2分冊(言語系教育･社会系教育･芸術系教育)		14	1994	p79～92
山田忠彰	芸術の記号論的把握ーヘーゲル美学の一位相	日本女子大学文化学研究		2	1994	p24～38
山内廣隆	『差異論文』におけるヘーゲルのフィヒテ批判	哲学(広島大学哲学会)		46	1994	p28～41
吉田六弥	ヘーゲルの「惑星軌道論」	カンティアーナ		25	1994	p1～24
渡部恒夫	社会政策批判の哲学的基礎(4)松村一人「ヘーゲルからの前進と後退ー田辺博士の弁証法についてー」に学ぶ	鹿児島経済大学経大論集	35	1	1994	p87～104
麻生博之	アドルノ「否定弁証法」の積極的構成ーヘーゲル「弁証法」概念との対照を介して	哲学		31	1995	p47～70
伊坂青司	初期ヘーゲルにおける<愛>の変容―ロマンティシズムからリアリズムへ	人文研究		124	1995	p1～33
石川伊織	ヘーゲルと近代的個人	哲学の探究		23	1995	p10～22
石田あゆみ	実践哲学の限界としての承認―ヘーゲルの1805-06年の精神哲学	関西哲学会年報 アルケー		3	1995	p23～33
伊藤功	ヘーゲルと善の問題ーソクラテスの問いをめぐって	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p41～52
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(6)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		19	1995	p13～30
岩淵剛	ヘーゲル「法の哲学」における「道徳」と「人倫」	名古屋大学哲学論集		3	1995	p89～104
上村芳郎	愛と結婚―ヘーゲル『法の哲学』を中心に	東京文化短期大学紀要		13	1995	p47～54
海老沢善一	仮象と反省ーヘーゲルの本質論理(1)	愛知大学文学論叢		109	1995	p1～15
太田信二	「意識」と「認識」ーヘーゲルの『精神現象学』と「心理学」との区別と連関について	一橋論叢	114	2	1995	p353～369

太田徹	カントがヘーゲルに準備したもの	ヘーゲル哲学研究		創刊号	1995	p53～64
大西正人	論理の主語としての主体性—ヘーゲルの主体概念再考	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p85～107
大薮敏宏	概念の弁証法とメタカテゴリー化—ヘーゲルのイェーナ論理学における充実する概念の生成	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p73～84
大薮敏宏	無限性と時間—イェーナ期ヘーゲルにおける時間論の形成(第54回〔日本哲学会〕大会一般研究発表要旨)	哲学		45	1995	p155～157
大藪敏宏	論理と実存—ヘーゲルの「思弁的聖金曜日の復興」	法政大学大学院紀要		35	1995	p43～48
岡崎英輔	若きヘーゲルにおけるギリシア的なもの	文経論叢	30	3	1995	p1～20
岡本賢吾	「可能なもの」の形而上学の意義	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p15～24
岡本裕一朗	ヘーゲルの体系構想と『デ・アニマ』解釈(第54回〔日本哲学会〕大会一般研究発表要旨)	哲学		45	1995	p134～136
小坂田英之	反照と体系　メタ論理学としてのヘーゲル論理学	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p40～72
小坂田英之	ヘーゲルと様相論理(3)—ゲームと捜査の論理学—	深沢ヘーゲル研究会会報		3	1995	p9～10
小田部胤久	バウムガルテン派から見たヘーゲル美学ーメンデルスゾーンを媒介として	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p25～32
加藤尚武	ヘーゲル・パース・ウィットゲンシュタイン・クワイン	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p4～13
加藤尚武	sich entschliesenとsich aufschliesen	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p3～14
加藤尚武	絶対的な理念	京都大学文学部研究紀要		34	1995	p38～91
金沢秀嗣	法源としての民族精神—歴史法学と哲学的法学:サヴィニー対ヘーゲル	早稲田大学大学院文学研究科紀要第1分冊		41	1995	p53～62

金沢秀嗣	初期ヘーゲルのカント・フィヒテ批判—「自然法論文」における<自然法の形式主義的取り扱い方>の分析	哲学世界		18	1995	p51～63
久保陽一	関係・イデアリスムス・認識—イェーナ論理学の対象と原理について	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p14～29
熊谷敦子	ヘーゲル宗教観の成立	大分大学教育学部研究紀要	17	1	1995	p61～76
黒崎剛	ヘーゲル論理学は何であり,何を叙述しているのか(第54回〔日本哲学会〕大会一般研究発表要旨)	哲学		45	1995	p131～133
幸津國生	ヘーゲルのニュルンベルク時代ギムナジウムの講義における論理学の篇別構成の変化について	日本女子大学紀要(人間社会学部)		5	1995	p189～204
後藤政人	実体の排却－G.W.F.HegelとCh.S.Peirceにおける	文化	53	4	1995	p260～274
近藤良樹	ヘーゲルのBestimmung(規定、使命)範疇について	広島大学文学部紀要		29	1995	p43～60
近藤良樹	ヘーゲル論理学における倫理学的範疇の問題性－その当為(Sollen)範疇をめぐって	倫理学研究(広島大学倫理学研究会)		8	1995	p25～41
斎藤稔章	精神の自然の権利としての人倫—ヘーゲルの最初の「精神哲学」に於ける意識と人倫	哲学論叢		22	1995	p1～12
桜井初江	意識の自己関係性－ヘーゲルの『精神現象学』における差異の産出	上智大学哲学誌		8	1995	p49～57
佐々木哲	ヘーゲル論理学とクーンのパラダイム論との比較研究	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p65～78
佐藤道郎	ヘーゲルとインド思想－ギーター批判をめぐって	比較思想研究		21	1995	p75～82
島崎隆	唯物論・弁証法・自由をめぐる諸問題－社会主義体制の崩壊とヘーゲル・マルクス関係	人文科学研究		32	1995	p111～188

高山守	ヘーゲル論理学研究創刊の辞	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p1～3
高山守	ヘーゲルの「弁証法」再考—「対話法」と「弁証法」	ヘーゲル論理学研究		創刊号	1995	p30～44
滝口清栄	シェリングとフォイエルバッハ—ヘーゲル批判の位相あるいは分岐	柴田隆行他編『神の再読・自然の再読　今なぜフォイエルバッハか』（理想社）			1995	p65～84
徳永哲也	ヘーゲルにおける「労働の哲学」—イエナ期の到達点と課題	倫理学研究		25	1995	p14～25
飛田満	ヘーゲルの自己意識概念の独自性—『精神現象学』をめぐって	哲学		45	1995	p223～232
八田隆司	ヘーゲルにおける宗教哲学の概念－ヘーゲル「啓示宗教」の論理と構造(1)(哲学<特集>)	明治大学教養論集		275	1995	p165～180
早瀬明	ヘーゲルのコルポラツィオーン論—市民社会の団体主義的変革に向けたヘーゲルの試み	京大西洋近世哲学史懇話会編『近世哲学研究』		2	1995	p21～38
原崎道彦	なぜ青年ヘーゲルは財産共有を批判したのか?	倫理学年報		44	1995	p87～102
藤田正勝	ヘーゲルの『精神現象学』とシェリングの『自由論』	高山守・藤田正勝編『シェリングとヘーゲル』（晃洋書房）			1995	p209～230
藤本忠	ヘーゲルの認識構造に関する超越論的究明—イェナ期『差異論文』の「超越論的直観」に定位して	上智哲学誌		8	1995	p17～48
星敏雄	基礎付けと根本概念－ヘーゲル自然哲学の学問論的構想	二松学舎大学論集		38	1995	p17～30
松村健吾	ヘーゲルにおけるロゴスとゲシュタルト－感覚的確信と存在の論理	大東文化大学紀要 人文科学		33	1995	p537～552

村上毅	「承認をめぐる闘争」の変貌—イエーナ期ヘーゲルの体系構想の過程における	愛知（神戸大学哲学懇話会）		11	1995	p65～74
村松聡	主体概念と実践哲学の問題構成—ヘーゲル哲学の形而上学的解釈からの脱出の試み	哲学論集		24	1995	p13～31
山内志朗	自然論理学の系譜－ヘーゲル論理学への可能的影響	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p33～40
山口誠一	ヘーゲル「アリストテレス講義」(1)－グリースハイムの未公刊筆記録(1825/26)に即して	法政大学教養部紀要		93	1995	巻末p65～89
山口祐弘	ドイツ観念論における絶対知論の先蹤—『1801年の知識学』とヘーゲル(特集 フィヒテ)	理想		655	1995	p96～109
山崎純	ドイツ観念論・その解体と完成における人間学—ヘーゲル・フォイエルバッハ・マルクス	『人間学—その歴史と射程』（創文社）			1995	p87～100
山崎純	ヘーゲルの原像をもとめて—後期発展史研究の幕開け	創文		364	1995	p19～22
山脇雅夫	学の論理—ヘーゲル『論理の学』の研究序説	密教文化		191	1995	巻末p127～109
湯田豊	ヘーゲル『精神現象学』の序文を読む	人文学研究所報		28	1995	p63～81
米永政彦	喜劇と弁証法－ヘーゲルにおける喜劇的なるもの	人文学科論集		41	1995	p1～25
浅見昇吾	ヘーゲル哲学とコミュニケーション理論—ハーバーマスのヘーゲル解釈に寄せて	哲学		100	1996	p87～100
新垣誠正	ヘーゲル『精神現象学』における人倫概念(2)	沖縄国際大学文学部紀要（社会学科篇）	20	2	1996	p1～10
池田晶子	形而上学的一撃(メタフィジカル・パンチ)(17)ヘーゲルさん	諸君	28	5	1996	p210～213
石井基博	ヘーゲルの「市民社会」概念の生成と構造	同志社哲学年報		19	1996	p43～59

石田あゆみ	未済の人倫—『精神の現象学』主-奴論の一解釈	近世哲学研究		3	1996	p63～86
稲福日出夫	<ヘーゲルとティボー>再論—書簡にあらわれる彼らの関係(特集 文明装置としての国家)	比較法史研究		5	1996	p191～204
井上和雄	ヘーゲルの難解さ—思弁哲学と経験科学の関係	神戸商船大学紀要 第1類 文科論集		45	1996	p91～113
宇野正昭	ヘーゲル『論理学』における「概念の発生」—「概念一般について」を中心に	哲学世界		19	1996	p49～61
生方卓	ヘーゲルとチュービンゲン	石塚・的場・村上編『都市と思想家II』(法政大学出版局)			1996	p2～18
海老沢善一	矛盾と言語—ヘーゲル本質論理 その2	愛知大学文学論叢		111	1996	p1～20
大槻裕子	ヘーゲル美学と『ファウスト』の関係を再考する—R.ブプナー『ヘーゲルとゲーテ』	モルフォロギア		18	1996	p120～125
大西正人	ヘーゲル論理学とIntersubjektivitat—ヘースレ『ヘーゲルの体系』の問題点を探りながら	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p109～128
大村晴雄	思い出すままに	ヘーゲル論理学研究		3	1996	p4～6
大薮敏宏	概念のオルガノンとしての様相—イェーナ論理学における様相の概念	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p51～59
大薮敏宏	無限性と時間—ヘーゲルにおける時間論の形成	哲学		47	1996	p227～236
岡崎文明	プロクロスとヘーゲル(1)ヘーゲルによるプロクロスの「一」の解釈	金沢大学教育学部紀要(人文・社会・教育科学編)		45	1996	巻末p212～194
小坂田英之	始元論と矛盾律—ヘーゲルと様相論理(4)	深沢ヘーゲル研究会会報		4	1996	p7～9
小坂田英之	ヘーゲルの無限判断論	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p93～108

鹿島徹	歴史の物語としてのヘーゲル歴史哲学	現象学解釈学研究会編『歴史の現象学』(世界書院)			1996	p195～226
鹿島徹	ハイデガーとヘーゲル『精神現象学』—論考「ヘーゲルの経験概念」をめぐって	哲学世界		19	1996	p1～20
勝部真長	ヘーゲル『法の哲学』に帰ろう—家族・市民社会・国家(【特集】「道徳教育の地域・家庭との連携を求めて」)	道徳と教育		290・291	1996	p28～32
加藤恒男	ヘーゲル美学と身体理解—自然美と芸術美をめぐって	中京女子大学研究紀要		30	1996	p97～110
加藤尚武	自然哲学のなかの論理学—『自然哲学』第246節の解釈	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p7～16
神山伸弘	教養の鏡としての国家—ヘーゲル『法の哲学』における国家の正当性について(シンポジウム 国家の正当性について)	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p15～26
工藤 豊	ヘーゲルにおける宗教と国家—宗教と国家の同一性の構造	仏教経済研究		25	1996	p117～136
工藤豊	ヘーゲルにおける人倫概念の形成—道徳性の克服と社会性の認識	仏教経済研究		26	1996	p97～119
久保陽一	ヘーゲル論理学をめぐる一つの遍歴	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p4～6
栗原隆・原崎道彦	シンポジウム ヘーゲルにおける歴史問題(第45回東北哲学会大会)	東北哲学会年報		12	1996	p61～75
黒崎剛	ヘーゲル論理学の＜理念＞とは何か—存在学としての論理学の正当性	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p59～82
上妻精	イエナ期ヘーゲルの「形而上学」草稿の一考察	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p1～14
小林 亜津子	信仰と体系知の相克—ヘーゲル『宗教哲学講義』1821年の形成史的意義	実践哲学研究		19	1996	p23～47

小林靖昌	国家の正当性について(シンポジウム国家の正当性について)	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p37～45
小屋敷琢己	ヘーゲルの知られざるトリアーデ—『精神現象学』の理念型	哲学の探求		24	1996	p110～130
権左武志	西欧思想史におけるヘーゲルの国家論—その起源と位置づけ	思想		865	1996	p28～48
斎藤稔章	民族精神と人間的自然—ヘーゲルの「歴史の発見」	哲学論叢		23	1996	p13～24
杉田正樹	無限と言語	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p17～32
菅生和典	ヘーゲルにおける現実性の概念	思索		29	1996	p43～60
鈴木覚	『精神現象学』における「良心」と「宗教」との関係について	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p61～70
鈴木 伸一	Geschichtsphilosophisches Denken und bürgerliche Gesellschaft bei Hegel(Referat an der Tagung der Internationalen Hegel-Gesellschaft in Budapest 27.8.1994)	駿河台法学	9	2	1996	巻末p70～63
鈴木 伸一	ヘーゲル『法哲学』と近代理性法(2)平等な自由の原理の実現の問題	駿河台法学	19	2	1996	p1～30
鈴木恒範	ヘーゲルの相互承認論—フィヒテとの比較	文化女子大学紀要(人文･社会科学研究)		4	1996	p147～158
銭広雅之	ヘーゲル主体説のテキストの分析と解釈	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p71～80
高田純	国家と個人の自由—その把握の転換(シンポジウム:国家の正当性について	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p27～36
高橋克己	Über die Erste und Zweite Fassung der Götter Griechenlandes Schillers(1788/1793)—Mit einer Überprufung der Interpretation in Hegels Ästhetik(1877ff.)	高知大学学術研究報告人文科学		45	1996	p29～62

高村是懿	ヘーゲル哲学における「概念論」の意義	唯物論と現代		18	1996	p111～125
滝口清栄	まとめ：シンポジウム<国家の正当性について>によせて	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p47～49
竹島尚仁	対自存在と本質―ヘーゲル『論理学』存在論における反省と反省規定	哲学論叢		23	1996	p37～48
田原善郎	「現実的なるもの」としての宗教―ヘーゲル宗教哲学の一考察	人文学科論集		29	1996	p95～115
土屋敬二	ヘーゲルの理性概念―『精神現象学』における理性	立命館文学		543	1996	p968～985
東城国裕	<我=我>から<我=我々>への転回点―ヘーゲル『精神現象学』「理性」章ノート	佐賀大学教養部研究紀要		28	1996	p147～178
西欣也	フォルムとトートロジー―ヘーゲル・アドルノにおけるフォルム認識の方法論	美学	47	1	1996	p25～36
八田隆司	ヘーゲル『宗教哲学』における実体-主観の展開―ヘーゲル「啓示宗教」の論理と構造	明治大学教養論集		288	1996	p163～188
服部健二	フォイエルバッハ『論理学・形而上学序論』について―ヘーゲルの主観的精神との比較	立命館文学		543	1996	p879～897
早瀬明	ベルンとヘーゲル	石塚・的場・村上編『都市と思想家II』（法政大学出版局）			1996	p242～259
樋口善郎	ヘーゲルにおける懐疑主義の克服	哲学論叢		23	1996	p25～36
福吉勝男	市民社会における人間と倫理(2)ヘーゲル『法・権利の哲学』を読む	名古屋市立女子短期大学研究紀要		56	1996	p21～34
藤田聡	限界づけは超越に先立つ―S.ジジェクのカント-ヘーゲル論に依拠して	ヘーゲル哲学研究		2	1996	p81～91
藤本忠	ヘーゲル認識構造に関する超越論的究明―イエナ期『差異論文』の「超越論的直観」	上智哲学誌		8	1996	p17～48

松富弘志	初期ヘーゲルの近代史民社会認識と政治思想—『人倫の体系』の一考察	『近代政治思想の諸相』(御茶ノ水書房)			1996	p177～206
松村健吾	エーテルの行方—ヘーゲル、イエナ期研究序説	大東文化大学紀要 人文科学		34	1996	p469～486
松本正男	超越論的論理学としてのヘーゲル「論理学」—特に「主観的論理学」とカント「超越論的論理学」との対照	山口大学哲学研究		5	1996	p1～30
松本正男	「実体」から「概念」へ—ヘーゲル「論理学」における形而上学的演繹の第一段階として	山口大学哲学研究		5	1996	p31～60
水野建雄	ディルタイの歴史認識—ヘーゲル批判と受容	倫理学		13	1996	p1～11
森田耕喜	ヘーゲル哲学における生命と死の概念	国際医療福祉大学		1	1996	p29～42
森田侑男	シェークスピアとヘーゲル	東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学		47	1996	p19～30
山口誠一	ヘーゲルの「アリストテレス講義」—グリースハイムの未公刊筆記録(1825/26)に即して	法政大学教養部紀要		96	1996	巻末p1～25
山脇雅夫	有限な事物の本性としての矛盾—ヘーゲル『論理の学』「反省規定論」註解	ヘーゲル論理学研究		2	1996	p33～58
湯田豊	ヘーゲルとインド哲学—『哲学史に関する講義』序論、東洋哲学について	人文学研究所報		29	1996	p37～59
吉田浩	ウェーバーとヘーゲル・マルクスとにおける現実性概念	唯物論研究年誌		1	1996	p353～379
寄川条路	生命と運命—ヘーゲルとヘルダーリン	フィロソフィア		84	1996	p21～34
麻生博之	他在と反省—ヘーゲルにおける自己意識概念の動性	倫理学年報		46	1997	p65～80
池田晶子	睥睨するヘーゲル	本	22	2	1997	p22～23
伊坂青司	近代社会における家族と国家	『国家とエスニシティ』(勁草書房)			1997	p25～55

板井孝一郎	ヘーゲル言語論と有機体的言語観—J.G.ヘルダーとの関係を中心に	実践哲学研究		20	1997	p117～135
板井孝一郎	ヘーゲルと「新しい神話」—生命的有機体の論理と主体的宗教	理学研究		27	1997	p60～73
伊藤一美	「論理的なものの三側面」をめぐって	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p45～56
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究 7	神奈川工科大学研究報告 A（人文社会科学編）		21	1997	p9～25
井上和雄	ヘーゲルの感覚と感情の働きについて(1)	神戸商船大学紀要 第1類 文科論集		46	1997	p1～27
岩城見一	ヘーゲルの<感性論(Asthetik)>—心の病をめぐって	哲学研究		564	1997	p1～35
上村芳郎	ヘーゲルの意識論	東京文化短期大学紀要		15	1997	p55～60
大西正人	機械的因果性の根底としての有機的世界—ヘーゲルとシェリング	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p61～71
小坂田英之	ヘーゲルの「概念・判断・推理」論—純粋思考の論理学	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p51～60
小坂田英之	『いきの構造』と無限判断—ヘーゲルと様相論理(5)	深沢ヘーゲル研究会会報		5	1997	p10～11
小坂田英之	ヘルマン・シュミッツの解釈から見た「ヘーゲルの無限判断論」	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p67～83
Alberg, Jeremieh L.	自然性から離れて—堕罪の立場から「精神現象学」を読む	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p39～49
笠井哲	ヘーゲル『精神現象学』の良心論	研究紀要		36	1997	p28～35
片山善博	ヘーゲルの自己意識論	唯物論研究年誌		2	1997	p338～366
加藤尚武	ヘーゲルと現代倫理学(シンポジウム：出発と回帰—ヘーゲルにおける現代)	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p21～30

金沢秀嗣	ナチズム下の法思想におけるヘーゲルの位置づけ(〔社会思想史学会〕第21回大会記録)	社会思想史研究		21	1997	p90～95
木田元	新・哲学入門(第17回)カントからヘーゲルへ	大航海		17	1997	p177～185
久保陽一	ヘーゲル論理学への眺望	創文		388	1997	p16～19
久保陽一	ヘーゲル「哲学の欲求」遺稿断片(1803年)	文化		17	1997	p50～137
黒崎剛	＜始元論＞の課題設定は変更されたか—『大論理学』の初版と二版におけるその違いをめぐって　寺沢恒信さんの所説に応答しつつ	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p114～130
幸津國生	後期ヘーゲルの「学の体系」における意識の位置付け—その方法的意味(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p51～61
上妻精	ヘーゲル研究会成立10周年記念挨拶(要旨) 厳密にテキストを読む	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p1～3
小林亜津子	「宗教哲学」講義1821年におけるヘーゲルとヤコービ—三位一体論解釈への一視点	倫理学研究(関西倫理学研究会)		28	1997	p34～46
権左武志	ヘーゲル政治哲学の生成と構造(1793-1820年)(3)ヨーロッパ精神史との関連において	北大法学論集	47	5	1997	p1399～1453
近藤良樹	ヘーゲルの「一者」範疇—充足した単独者の空虚と没個性化	倫理学研究(広島大学倫理学研究会)		10	1997	p15～34
座小田豊	必然性と自由—ヘーゲル哲学における自由の意味について	思索		30	1997	p25～49
篠原敏雄	ヘーゲル法哲学・マルクス歴史理論・市民法学—特に、市民社会と国家をめぐって	国士館法学		27	1997	p29～65
島崎隆	ヘーゲル哲学・ヘーゲル論理学の研究方法およびそれにまつわる課題について、いまどのように反省したらよいか	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p57～62

下城一	ヘーゲルの「行為」論—「主体」概念の更新と「個体性」の再建	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p73～83
寿福真美	近代社会における労働・相互承認・言語—ヘーゲル『人倫の体系』分析(2)	商学論纂	38	5	1997	p101～125
杉田正樹	島崎提起への一つの応答	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p63～66
高田純	ヘーゲルマルクス紀行	唯物論		42	1997	p52～62
高橋紀穂	ジョルジュ・バタイユにおけるヘーゲル受容—ヘーゲル/コジェーヴ/バタイユ	ソシオロゴス		21	1997	p70～182
高山守	アドルノのヘーゲル批判再批判(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p95～105
田村伊知朗	初期カール・ナウヴェルク研究序説—自由主義的政治思想とヘーゲル左派(「初期カール・ナウヴェルク著作目録(1834-1849年)」添付)	法政大学教養部紀要		101・102	1997	p53～78
飛田満	ヘーゲルの《理性の定義》をめぐって	倫理学年報		46	1997	p81～94
中岡成文	ヘーゲルの「実在性」論	待兼山論叢		31(哲学)	1997	p1～13
長島隆	体系期ヘーゲルの空間-時間論—講義草稿の議論を視野に入れて(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p62～71
尼寺義弘	ヘーゲル本質論とマルクス価値形態論	阪南論集(人文・自然科学編)	32	4	1997	p173～178
橋本信	知覚における人間的意識の経験—ヘーゲルの知覚論	拓殖大学論集 人文・自然科学	5	1	1997	p1～22
長谷川宏	芸術とヘーゲル(シンポジウム 出発と回帰—ヘーゲルにおける現代)	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p31～37
八田隆司	ヘーゲル宗教哲学におけるキリストの顕現とその論理—ヘーゲル「啓示宗教」の論理と構造(3)	明治大学教養論集		300	1997	p167～186
八田隆司	フォイエルバッハとヘーゲルその宗教と自然についての把握	比較思想研究		23別冊	1997	p14～16

早瀬明	政治的共同体の理想と資本主義社会—経済社会の倫理化に向けたヘーゲルの試み	Mare Nostrum（京都外語大学地中海文化研究会研究報告）		9	1997	p49～57
原敏晴	ヘーゲル論理学の量の概念	和歌山工業高等専門学校研究紀要		32	1997	p73～78
原崎道彦	バタイユとヘーゲル(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p117～127
福吉勝男	市民社会における人間と倫理(4)ヘーゲル『法・権利の哲学』を読む	名古屋市立女子短期大学研究紀要		57	1997	p9～23
藤井哲郎	ヘーゲル『法の哲学』における国家・団体・市民	東京経大学会誌		201	1997	p27～46
藤田正勝	経験をめぐって—ヘーゲル・ハイデガー・ガダマー(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p128～137
干場薫	概念と対象の一致について—ヘーゲル『精神現象学』の一考察	一橋論叢	118	2	1997	p252～270
松田央	ヘーゲルによる「神の痛み」の思想	日本の神学		36	1997	p32～54
松田央	『精神現象学』の神学的解釈—ヘーゲルのキリスト論	神戸女学院大学論集	44	1	1997	p13～30
松富弘志	ヘーゲル国家論と現代—近代市民社会認識と政治思想	東京経大学会誌		201	1997	p47～63
松村健吾	革命と宗教—ヘーゲルのルソーとの出会い	竹田弘編『ヒューマニズムの変遷と展望』（未来社）			1997	p73～113
松本千鶴子	近代の個人と家族の地平—フェミニズムからウェーバーとヘーゲルを読む(特集 フェミニズムと哲学)	理想		659	1997	p83～95
向井久	ヘーゲル目的論の合理的論及—技術の普遍文法をめざして	九州女子大学紀要 人文・社会科学編	33	3・4	1997	p169～195

村上恭一	ヘーゲル『精神現象学』における自己意識の自立性と非自立性(上)コジェーヴによるヘーゲル、その現代化の試み	法政大学教養部紀要		100	1997	p185～203
森田侑男	ヘーゲル美学に於けるシェークスピア	東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学		48	1997	p55～69
山口誠一	日本の『精神現象学』研究史	法政大学教養部紀要		100	1997	p61～91
山口祐弘	現代における体系哲学の有効性—体系批判と批判的体系(シンポジウム 出発と回帰—ヘーゲルにおける現代)	ヘーゲル哲学研究		3	1997	p5～19
山口誠一他	新プラトン主義とヘーゲル	科研費報告書『西洋哲学史における新プラトン主義の影響作用史の研究』			1997	p81～89
山崎純	ヘーゲルと歴史的現在—未公刊講義録と最新のテクストを踏まえて	文化と哲学		14	1997	p1～22
山崎純	時空の十字路としての世界史—ヘーゲル「歴史哲学」新資料を読む(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p72～82
山脇雅夫	ヘーゲルとヴェーバー—-近代の運命をめぐって(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p83～94
米永政彦	悪についての覚書—レーヴィットとヘーゲル	人文学科論集		45	1997	p1～24
寄川条路	近代国家とドイツ統一—ヘーゲル『ドイツ国制論』をめぐって	富士論叢(富士短期大学学術研究会)	42	1	1997	巻末p218～198
渡辺二郎	ヘーゲル現象学の周辺(特集 ヘーゲルを読み直す)	理想		660	1997	p2～18
渡辺祐邦	『大論理学』におけるヘーゲルのベルセリウス批判と度量論の諸問題	ヘーゲル論理学研究		3	1997	p7～44

伊坂青司	絶対者と知的直観―シェリングの「同一哲学」とヘーゲルによる批判	思索		31	1998	p65～83
石田あゆみ	良心は相互に承認しあうか―ヘーゲル『精神の現象学』の良心論	岡山大学文学部紀要		29	1998	p29～39
伊藤功	ヘーゲル『哲学史講義』における「不動の動者」解釈	哲学世界		21	1998	p19～30
伊藤一美	ヘーゲル「大論理学」の研究 (8)	神奈川工科大学研究報告 A 人文社会科学編		22	1998	p1～13
井上和雄	ヘーゲルの感覚と感情の働きについて(2)	神戸商船大学紀要 第1類 文科論集		47	1998	p71～92
岩城見一	ヘーゲルの芸術終焉論―瀕死の哲学的美学の興奮剤(?)(シンポジウム哲学における終焉と理性の行方)	ヘーゲル哲学研究		4	1998	p23～33
岩波哲男	ヘーゲルとキリスト教	フィロソフィア(早稲田大学哲学会)		86	1998	p47～70
海老沢善一	現象と相関、破綻した論理―ヘーゲルの本質論理(その4)	愛知大学文学論叢		117	1998	p1～32
海老沢善一	根拠と物―ヘーゲルの本質論理 その3	愛知大学文学論叢		116	1998	p1～30
岡崎英輔	ヘーゲルと「アンティゴネー」	文経論叢	33	3	1998	p1～17
小坂田英之	社会的存在論としての質の論理学―無限判断の射程からの反照理論の再構築	ヘーゲル論理学研究		4	1998	p35～46
面一也	ヘーゲルにおける時間と自由(1)	早稲田政治公法研究		57	1998	p287～317
面一也	ヘーゲルにおける時間と自由(2)	早稲田政治公法研究		59	1998	p235～266
角田修一	ヘーゲル論理学・有論「質」と「資本」の論理	経済論叢	161	1	1998	p48～67
笠井哲	ヘーゲル『法の哲学』の良心論	研究紀要		37	1998	p58～65
勝道興	映現と反映―ヘーゲル『大論理学』におけるReflexionについて	関西大学哲学		18	1998	p5～28

勝道興	ヘーゲル哲学における「悲劇的なもの」について	哲学		46	1998	p120～129
加藤恒男	「芸術美の限定相」における身体の意味—ヘーゲル『美学講義』における身体理解	中京女子大学研究紀要		32	1998	p85～103
加藤尚武	ヘーゲル入門(1)ヘーゲルにとって書くことは何を意味したか	ちくま		325	1998	p38～41
加藤尚武	ヘーゲル入門(2)	ちくま		326	1998	p36～39
加藤尚武	ヘーゲル入門(3)精神と自然の綾取り紐	ちくま		327	1998	p38～41
加藤尚武	ヘーゲル入門(4)スピノザ書簡	ちくま		328	1998	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(5)単独になれるはずのないものの単独化	ちくま		329	1998	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(6)絶対的なものの定義	ちくま		330	1998	p38～41
加藤尚武	ヘーゲル入門 (7)	ちくま		331	1998	p38～41
加藤尚武	ヘーゲル入門 (8)	ちくま		332	1998	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(9)体系というロマンティックな夢	ちくま		333	1998	42～45
金沢秀嗣	ナチズム下の法思想におけるヘーゲルの位置づけ—G.ドゥルカイトとK.ラーレンツ	哲学世界		21	1998	p31～43
長谷川 宏	ヘーゲルは国家主義者ではない—『精神現象学』の国家像(特集国家が消滅するとき)	大航海		20	1998	p98～101
工藤豊	ヘーゲル『法哲学』における人倫概念の展開—国家における「権利」の実現	仏教経済研究		27	1998	p131～151
熊野純彦	生成する真理—ヘーゲルにおける「意識の命題」をめぐって	東北大学文学部研究年報		47	1998	巻末p326～297
黒崎剛	〈論理〉と〈自然〉はいかに関わるか—ヘーゲル哲学体系における論理学から自然哲学への移行の議論をめぐって	ヘーゲル論理学研究		4	1998	p117～141
小林亜津子	世界と神との和解—「宗教哲学」講義1821年草稿におけるキリスト教と世俗性	ヘーゲル哲学研究		4	1998	p41～53

桜井一江	ヘーゲルにおける言語の否定性	哲学		49	1998	p231～238
佐藤康邦	「歴史の終焉」という考え方の今日における意義—目的論の再検討(シンポジウム：哲学における終焉と理性の行方)	ヘーゲル哲学研究		4	1998	p15～22
塩原賢司	ヘーゲルの人倫概念にみる陶冶論	教育思想		25	1998	p1～17
柴田隆行	論理と実存の接点を求めて	ヘーゲル論理学研究		4	1998	p4～6
菅生和典	ヘーゲルの喜劇論—笑うことの真理	文化	62	1･2	1998	p111～95
高橋一行	ヘーゲル論理学における個体化の論理	政経論叢	67	1･2	1998	p219～241
高橋一行	ヘーゲル論理学における有機体論	ヘーゲル論理学研究		4	1998	p47～58
竹島あゆみ	和解は和解と合一するか—ヘーゲル『精神の現象学』における啓示宗教と絶対知	岡山大学文学部紀要		30	1998	p55～65
竹村喜一郎	ヘーゲル論理学の成立過程—ニュルンベルク・ギムナジウム哲学予備学の展開	哲学･思想論集		23	1998	p33～68
富山太佳夫	歩行と思索 ヘーゲル、どこに?	現代思想	26	15	1998	p18～21
尼寺義弘	G.W.F.ヘーゲル『イェーナ精神哲学』における「知力」の展開	阪南論集（社会科学編）	33	3	1998	p183～194
八田隆司	ヘーゲル「宗教哲学」における精神の共同体と神の顕現—ヘーゲル「啓示宗教」の論理と構造(4)(特集 哲学)	明治大学教養論集		310	1998	p1～16
早瀬明	哲学の行方と教養の復権—哲学の終焉の現実的可能性を巡って(シンポジウム：哲学における終焉と理性の行方)	ヘーゲル哲学研究		4	1998	p34～40
早瀬明	Res publicaとSittlichkeit—Republik概念の発展を通して見た,ヘーゲルの政治哲学に対するアリストテレスの影響	京都外国語大学研究論叢		51	1998	p60～80

藤井哲郎	ヘーゲルにおける共和主義の変容(1)ドイツ国制論を中心に	政治経済史学		380	1998	p1～15
藤井哲郎	ヘーゲルにおける共和主義の変容(2)ドイツ国制論を中心に	政治経済史学		381	1998	p31～49
干場薫	ヘーゲルにおける言語と思考の関係について	一橋論叢	120	2	1998	p253～268
細川亮一	コロキウム：ヘーゲル体系の着手点—現象学の論理と現象学体系	ヘーゲル哲学研究		4	1998	p1～14
細川亮一	歴史としての現象学—悟性とプラトン『ソピステス』	哲学論文集		34	1998	p1～16
松生建	ヘーゲルの市民社会論における犯罪と刑罰(1)	海保大研究報告 法文学系	43	2	1998	p1～28
松田央	世界に内在する神—ヘーゲルの愛の思想	神戸女学院大学論集	45	1	1998	p45～67
松村健吾	神の国はどこに?ヘーゲル「イエスの生涯」の研究	大東文化大学紀要（人文科学）		36	1998	p219～232
村上恭一	《研究ノート》ヘーゲル『精神現象学』における自己意識の自立性と非自立性(下)コジェーヴによるヘーゲル、その現代化の試み	法政大学教養部紀要		104	1998	p95～112
山口祐弘	ドイツ観念論の現代的意義—神の死とヘーゲル	哲学論集		27	1998	p1～19
山口祐弘	弁証法の根源と論理—ヘーゲルのプラトン受容	ヘーゲル論理学研究		4	1998	p7～34
山脇雅夫	近代の存在論—ヘーゲルの現実性概念	哲学研究		566	1998	p89～127
吉田達	ヘーゲルにおける<瞬間>の問題	東北哲学会年報		14	1998	p14～26
能見善久	民法実戦ゼミナール(11・最終回)婚姻を考える—カントとヘーゲルを手がかりに	月刊法学教室		211	1998	p88～93
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル研究	愛知大学国際問題研究所紀要		110	1998	p366～337
寄川条路	体系への道 初期ヘーゲル研究(1)	愛知大学文学論叢		117	1998	p33～60

荒木正見	ヘーゲルと西田幾多郎における自然・歴史と存在	人文研究（福岡女学院大学人文学研究所）		2	1999	巻末p1～30
伊坂青司	イェーナ「自然哲学」構想の成立	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』（創文社）			1999	p29～52
伊坂青司	ヘーゲル最初の哲学体系構想—イェーナ大学「哲学序論」講義草稿の考察	人文研究		136	1999	p1～24
石川伊織	芸術は終焉するか？—1820/21年の美学講義を検証する	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』（創文社）			1999	p179～204
板橋勇仁	哲学＜と＞宗教—ヘーゲルと西田	上智哲学誌		12	1999	p28～39
伊藤一美	ヘーゲル『大論理学』の研究(9)	神奈川工科大学研究報告A		23	1999	p13～25
稲葉守	『大論理学3概念論』の出現を歓迎し併せて訳者寺沢恒信先生の急逝を悼む	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p4～6
井上和雄	ヘーゲルの「意識」の三段階と観念論の成立	神戸商船大学紀要第1類		48	1999	p25～44
内田弘	マルクス・エピクロス・ヘーゲル	専修経済学論集	33	3	1999	p143～172
海老澤善一	批評家ヘーゲル	愛知大学文学論叢		120	1999	p1～22
海老澤善一	現実と自由、人間存在の論理—ヘーゲルの本質論理(5)	愛知大学文学論叢		118	1999	p1～26
大石雄爾	「普通の理解力」で読むヘーゲル論理学の「有論」	駒沢大学経済論集	31	3	1999	p97～137
大河内泰樹	ヘーゲル『論理学』におけるMaterie概念批判の検討—超越論的観念論から絶対的観念論への展開を巡る一つの視座	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p21～34
大塚桂	デュルケームとドイツ哲学—ヘーゲルとの関係	政経研究	36	2	1999	p1137～1164

大西正人	「観念的な矛盾」について—ヘーゲルの矛盾論	ヘーゲル哲学研究		5	1999	p42～53
大橋基	ヘーゲル『自然法論文』における「服従」の概念	倫理学年報		48	1999	p59～74
小坂田英之	ヘーゲルの個別論	途上		24	1999	p69～90
面一也	ヘーゲルにおける時間と自由(3)	早稲田政治公報研究		61	1999	p309～333
折出健二	ヘーゲル『精神現象学』におけるアザーリング問題と教育実践	唯物論研究年誌		4	1999	p271～297
柿木伸之	媒介と聴取—ヘーゲルにおける啓示宗教の精神と言語の関係をめぐって	上智哲学誌		12	1999	p1～12
笠井哲	ヘーゲルの家族論—愛と婚姻について	研究紀要		39	1999	p127～134
勝道興	主観性の響鳴とその沈黙—ヘーゲルの音楽哲学について	関西大学哲学		19	1999	p45～65
加藤恒男	ヘーゲル芸術形式論における象徴概念—象徴と身体理解の視角から	中京女子大学研究紀要		33	1999	p85～92
加藤尚武	ヘーゲルによる「自然哲学」の改訂—その哲学体系における「数学」の抹消	哲学研究		568	1999	p20～43
加藤尚武	ヘーゲル論理学の形成と変容	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p105～128
加藤尚武	ヘーゲル入門(10)自分は自分の上に立っている	ちくま		334	1999	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(11)神は万人の自己である	ちくま		335	1999	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(12)心にもないほめ殺し—どうして無神論に駆け込まないのか	ちくま		336	1999	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(13)	ちくま		337	1999	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門(14)	ちくま		338	1999	p40～43
加藤尚武	ヘーゲル入門(15)	ちくま		339	1999	p46～49
加藤尚武	ヘーゲル入門(16)ヘーゲルがぜったいに言わない「正反合の弁証法」	ちくま		340	1999	p42～45

加藤尚武	ヘーゲル入門(17)ヘーゲルの「芸術終焉説」	ちくま		341	1999	p42～45
加藤尚武	ヘーゲル入門-最終回-ヘーゲル哲学の「終わり」観	ちくま		342	1999	p42～45
河本英夫	ヘーゲル自然哲学とオートポイエーシス	ヘーゲル哲学研究		5	1999	p85～97
久保陽一	イェーナ論理学における関係と様相	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p5～28
栗原隆	「哲学史講義」における重奏と変奏	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p229～253
黒崎剛	シェリングのヘーゲル批判―存在論の可能性をめぐるドイツ観念論最後の争い	シェリング年報		7	1999	p61～71
黒崎剛	『大論理学』・「存在―無―成」論における初版と二版との異同について	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p121～155
黒積俊夫	ヘーゲルの経験理論とその挫折―『意識経験学』から『精神現象学』へ	名古屋大学文学部研究論集		45	1999	p151～174
幸津國生	学の次元、とりわけ「絶対理念」における意識の止揚―ヘーゲルのニュルンベルク時代ギムナジウム講義における後期体系構想への発展史の一局面をめぐって	日本女子大学紀要		10	1999	p147～165
幸津國夫	意識と学―ニュルンベルク時代における後期ヘーゲルの「学の体系」構想の形成	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p77～101
小林亜津子	ヘーゲルとルター―啓蒙と神秘	ヘーゲル哲学研究		5	1999	p24～41
小林亜津子	ヘーゲル汎神論と神の存在証明―神の存在の特権性	倫理学年報		48	1999	p45～58
小林昌人	『ドイツ・イデオロギー』の配列問題―ヘーゲル左派論争の視角から	社会思想史研究		23	1999	p74～79

崎川あんぬ	ヘーゲル宗教哲学におけるPositivitätの問題—『神学論集』から『宗教哲学講義』まで	上智哲学誌		12	1999	p13～27
座小田豊	精神哲学の成立—イェーナ体系構想における「無限性」概念の意義	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p53～75
佐藤彰	ヘーゲル哲学に現れた倫理思想	比較文化・比較文学		4	1999	p102～113
佐藤彰	G.W.F.ヘーゲル哲学における倫理思想	日本大学工学部紀要	40	2	1999	p75～80
佐藤彰	G.W.F.ヘーゲル哲学における教育思想(2)客観的精神の展開としての理性への自立	日本大学工学部紀要	41	1	1999	p107～112
佐藤彰	G.W.F.ヘーゲル哲学における教育思想(1)人間の倫理的形成について	日本大学工学部紀要	41	1	1999	p103～105
佐藤敬太	ヘーゲル『精神の現象学』にみる人間の自立性の本質	一橋論叢	122	2	1999	p315～329
佐野之人	有、無、成—ヘーゲル『大論理学』研究(1)	東亜大学研究論叢	24	1	1999	p23～57
塩原賢司	ヘーゲルの歴史哲学における教育と文化の問題	教育思想		26	1999	p35～46
柴田隆行	フォイエルバッハとヘーゲル論理学	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p7～20
鈴木覚	精神の概念としての自己意識—ヘーゲル『精神現象学』、自己意識論の分析	倫理学		16	1999	p79～88
鈴木覚	ヘーゲル哲学におけるヤコービ	哲学・思想論集		25	1999	p95～116
高田純	自己意識と自由(3)ヘーゲル『精神現象学』(「自己意識」論)図解	経済と経営	29	4	1999	p781～809
高田純	自己意識と自由(5)ヘーゲル『精神現象学』(「自己意識」論)図解	:経済と経営	30	3	1999	p791～820
高田純	自己意識と自由(4)ヘーゲル『精神現象学』(「自己意識」論)図解	経済と経営	30	1	1999	p233～258
高橋一行	自己関係するシステム＝ヘーゲル論理学	明治大学社会科学研究所紀要	37	2	1999	p67～81

高山守	ヘーゲル『精神現象学』「3.力と悟性」章をめぐって	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		18	1999	p40～60
滝口清栄	憲法闘争と『法(権利)の哲学』の成立—ハイデルベルクからベルリンへ	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p153～178
竹島尚仁	個物から見たヘーゲルの個体論—個体の同一性とその基準をめぐって	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p35～52
竹村喜一郎	ヘーゲル論理学における認識了解(1)	哲学・思想論集		25	1999	p1～24
田村一郎	ドイツ観念論と「秘儀結社」—シェリングとヘーゲルの場合(1)	鳴門教育大学研究紀要		14	1999	p57～71
田村伊知郎	近代福祉国家の形成期における自由主義と協会—ドイツ三月前期におけるヘーゲル左派、カール・ナウヴェルクの思想を中心にして	法政大学教養部紀要		109	1999	p107～124
土屋敬二	ヘーゲルの自然哲学—一批判的考察	立命館文学		560	1999	p1～16
徳増多加志	生命と精神—ヘーゲル哲学におけるイデーとしての生命	鎌倉女子大学紀要	6		1999	p11～28
長嶋隆	体系期ヘーゲルにおける自然把握と自然哲学の基礎付け	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』(創文社)			1999	p129～151
中西智美	現象する意識—ヘーゲルの存在論的弁証法	関西学院哲学研究年報		33	1999	p93～106
西研	ヘーゲル哲学のアクチュアリティ?	ヘーゲル哲学研究		5	1999	p69～84
尼寺義弘	ヘーゲル『法の哲学』の「欲求の体系」の経済分析	阪南論集	34	3	1999	p139～150
尼寺義弘	ヘーゲルの「理性の狡智」と目的活動	阪南論集	34	4	1999	p175～188

橋ヒサキ	HEN-PANTA(1.TEIL)Das Problem der Kontradialektik in der Wesenslogik von Zen und Hegel	東洋学研究		36	1999	巻末p216～192
早瀬明	ヘーゲル『ドイツ国制論』草稿断片″Sollte das politische Resultat…″研究—「ドイツ帝国」の政治的現実の根源へ肉薄する歴史哲学の眼差し	京都外国語大学研究論叢		53	1999	p205～216
早瀬明	ヘーゲルの絶対者論—絶対知の体系を可能ならしめる、絶対知を超え出るもの	フィヒテ研究		7	1999	p51～67
原崎道彦	青年ヘーゲル論(3)	高知大学教育学部研究報告第2部		57	1999	p1～80
原島重義	ヘーゲルとドイツ・ロマン主義—民法研究の途上で(2)	久留米大学法学		別巻10	1999	p1～21
福吉勝男	ヘーゲルにおける「理性-現実」関係把握の変化—『法・権利の哲学』講義録との関係	理想		662	1999	p152～173
藤井哲郎	ハイデルベルク期ヘーゲルの政治哲学的課題	政治経済史学		398	1999	p1～27
藤田俊治	ヘーゲル論理学における「主観性」をめぐって—K.デュージング『ヘーゲル論理学における主観性の問題』の検討	ヘーゲル論理学研究		5	1999	p89～111
松井良和	ヘーゲルにおける＜sich＞と「みずから」—an sich とfur sichをめぐる比較語学的考察	論集		9	1999	p13～26
松島雪江	市民社会の法と道徳—ヘーゲル市民社会論と法化	日本法学	65	3	1999	p171～191
松村健吾	実践理性のディアレクティク—ヘーゲル『キリスト教の実定性』の研究	大東文化大学紀要		37	1999	p183～197
松村健吾	ヘーゲルの『告白』としての『精神の現象学』理性章B・C(上)	山村女子短期大学紀要		11	1999	p55～75

村上恭一	ヘーゲル『精神現象学』における意識・自己意識・理性および精神に関する総合的註釈(上)コジェーヴにおけるヘーゲル、その現代化の試み	法政大学教養部紀要		109	1999	p141～164
森田侑男	ヘーゲルの絵画論(1)	東京学芸大学紀要第2部門		50	1999	p47～59
森本さとか	ヘーゲルの『理性』と道徳教育	道徳と教育	44	2	1999	p273～276
山口誠一	ディオニュソス的絶対者の謎—ヘーゲルから東洋への地下通路を踏み歩く	慶應義塾大学日吉紀要（人文科学）		14	1999	p1～20
山口祐弘	ヘーゲルにおける概念の形而上学—カント哲学の理念と継承	ヘーゲル學報		4	1999	p1～39
山崎純	「偉大な体系家ヘーゲル」像の終焉	創文		411	1999	p17～19
山崎純	〈歴史の始まり〉としての近代—「世界史の哲学」講義にみられる近代認識の発展	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』（創文社）			1999	p205～228
山田有希子	ヘーゲル精神現象学研究「逆さまの世界」	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集		18	1999	p191～205
山中隆次	初期ヘーゲルの思想的出立点—ベルン時代のヘーゲル	商学論集	40	3･4	1999	p203～225
山内廣隆	イエナ期ヘーゲル研究の二つの道	シンポシオン（広島大学哲学研究室）		45	1999	p28～42
山内廣隆	ヘーゲルのフィヒテ批判と受容—イエナにおけるヘーゲル哲学の発展	ヘーゲル學報		4	1999	p706～750
米沢有恒	弁証法について—ヘーゲル美学への入口	兵庫教育大学研究紀要第2分冊		19	1999	p13～23
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル研究	言語と文化		1	1999	巻末p184～171

寄川条路	新たな展望—初期ヘーゲル研究のために	愛知大学文学論叢		120	1999	p23～50
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル研究(4)	愛知大学文学論叢		118	1999	p27～50
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル建久(6)	愛知大学文学論叢		119	1999	p1～25
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル研究(8)	愛知大学国際問題研究所紀要		111	1999	巻末p306～281
寄川条路	体系への道—初期ヘーゲル研究(10)	愛知大学文学論叢		121	1999	p1～23
和田隆子	フォイエルバッハの哲学改革(1)ヘーゲル批判から感性主義へ	常陸会短期大学紀要		28	1999	p89～100
重松博之	ヘーゲル承認論の現在—A.ホネットの承認闘争論を中心として	法哲学年報		1999	1999年号	p120～130